

Wireless LAN PC Card

CentreCOM[®]

WR110PCM V1

ユーザーマニュアル

CentreCOM®
WR110PCM V1

ユーザーマニュアル

©2003 アライドテレシス株式会社

PN J613-M3552-00 Rev.A 030620

安全のために



必ずお守りください



警告

下記の注意事項を守らないと火災・感電により、死亡や大けがの原因となります。

分解や改造をしない

本製品は、取扱説明書に記載のない分解や改造はしないでください。火災や感電、けがの原因となります。



分解禁止

雷のときはケーブル類・機器類にさわらない

感電の原因となります。



雷のときはさわらない

異物はいれない 水は禁物

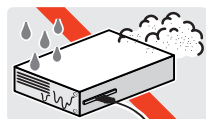
火災や感電の恐れがあります。水や異物を入れないように注意してください。万一水や異物が入った場合は、電源プラグをコンセントから抜いてください。(当社のサポートセンターまたは販売店にご連絡ください。)



異物厳禁

湿気やほこりの多いところ、油煙や湯気のあたる場所には置かない

内部回路のショートの原因になり、火災や感電の恐れがあります。



設置場所注意



注意

下記の注意事項を守らないとけがをしたり、周辺の家財に損害を与えたりすることがあります。

高温注意

本製品の使用直後は高温になっています。不用意に触ると、火傷の恐れがあります。



高温注意

ご使用にあたってのお願い

次のような場所での使用や保管はしないでください。

- ・直射日光の当たる場所
- ・暖房器具の近くなどの高温になる場所
- ・急激な温度変化のある場所（結露するような場所）
- ・湿気が多い場所や、水などの液体がかかる場所（湿度90%以下の環境でご使用ください）
- ・振動の激しい場所
- ・ほこりの多い場所や、ジュータンを敷いた場所（静電気障害の原因になります）
- ・腐食性ガスの発生する場所



静電気注意

本製品は、静電気に敏感な部品を使用しています。部品が静電破壊する恐れがありますので、コネクタの接点部分、ポート、部品などに素手で触れないでください。



取り付け・取り外しのときの注意

コンピューターのPCカードスロットに本製品を取り付ける作業は、必ず本マニュアル及び、ご使用のコンピューターのマニュアルを参照の上正しく行ってください。



長期保管時は袋に入れて

本製品を長期にわたって保管する場合は、必ず添付の袋（静電防止）に入れてください。



取り扱いはていねいに

落としたり、ぶつけたり、強いショックを与えないでください。



お手入れについて

清掃するときは電源を切った状態で

誤動作の原因になります。



機器は、乾いた柔らかい布で拭く

汚れがひどい場合は、柔らかい布に薄めた台所用洗剤（中性）をしみこませ、強く絞ったものでふき、乾いた柔らかい布で仕上げてください。



ぬらすな



中性洗剤
使用



強く絞る

お手入れには次のものは使わないでください

・石油・みがき粉・シンナー・ベンジン・ワックス・熱湯・粉せっけん
（化学ぞうきんをご使用のときは、その注意書に従ってください。）



シンナー
類不可

はじめに

この度は、「CentreCOM WR110PCM V1」無線LAN用PCカードをお買い上げいただきまして誠にありがとうございます。このマニュアルは、本製品を正しくご利用いただくための手引きです。必要なときにいつでもご覧いただくために、保証書とともに大切に保管くださいますようお願いいたします。

内容物をご確認ください

本製品パッケージの内容は、下記のとおりです（下記以外に添付紙が同梱されている場合があります）。お買い上げ商品についてご確認いただき、万一不足するものがございましたら、お手数ですが、弊社サポートセンターまでご連絡ください。

- CentreCOM WR110PCM V1 本体 1 枚
- CD-ROM（ドライバー、ユーティリティ収録）1 枚
- ユーザーマニュアル（本書）1冊
- リリースノート 1 枚
- 製品保証書 1 枚
- シリアル番号シール 2 枚
- 電波干渉注意ラベル 1 枚

ドライブ名「C:」「D:」

本書では、ドライバーのインストール対象となるコンピューター機種として「AT 互換機 / PC98-NX シリーズ」を想定しています。「AT 互換機 / PC98-NX シリーズ」では、ドライブ名として下記を仮定して説明しています。ご使用のコンピューターでドライブ名が異なる場合は、ご使用のコンピューターにおけるものと読み替えてください。

- 「起動ドライブ（ハードディスク）」として「C:」
- 「CD-ROM ドライブ」として「D:」



本製品の最新情報

本製品に関する最新情報（ファームウェアのバージョンアップ情報など）は、弊社のホームページでお知らせします。無線LANに関する情報や活用例などもご紹介しておりますので、是非、弊社のホームページをご覧ください。

弊社のホームページ <http://www.allied-teleasis.co.jp/>

表記上の注意

本書で使用しているアイコンは、次の意味で使用しています。

 注意	人体やシステムに危害や損害が及ぶ恐れがあることを示します
	重要な情報や指示を示します

電波に関する注意

本製品を下記のような状況でご使用になることはおやめください。また設置の前に、「安全のために」を必ずお読みください。

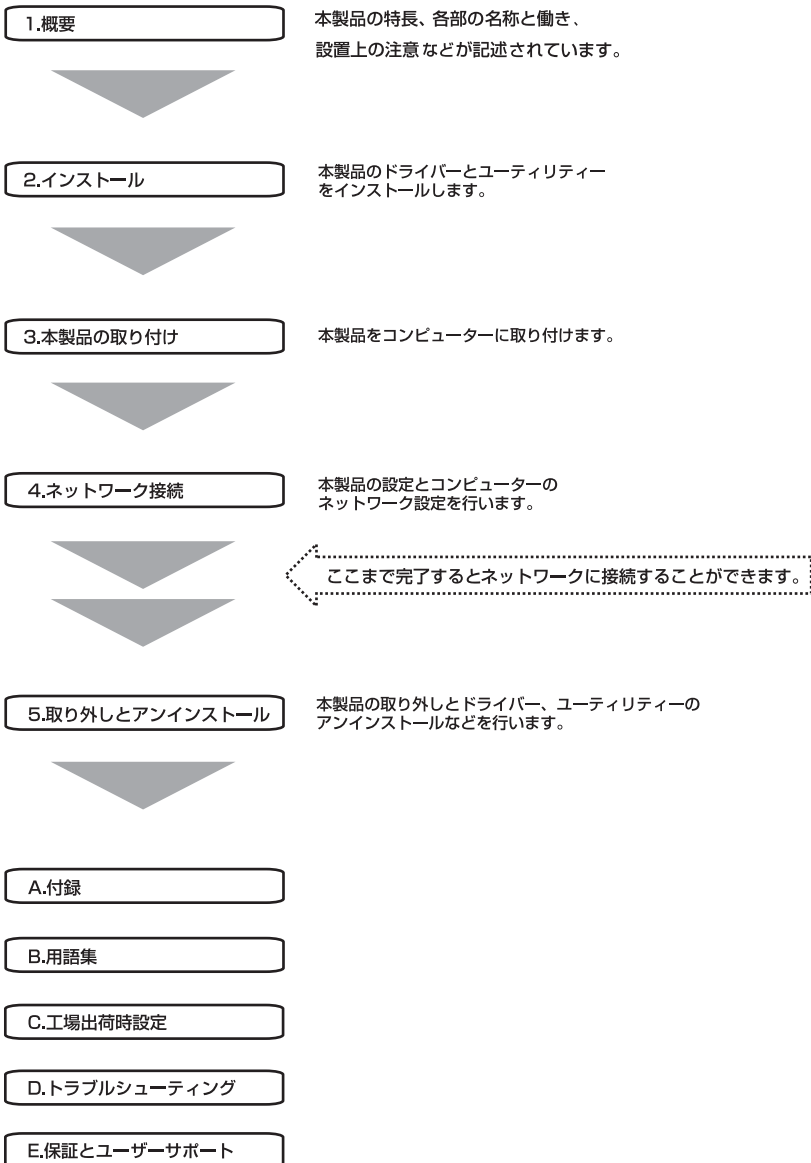
- 心臓ペースメーカーをご使用の方の近くや、医療機器の近くで本製品を使用しないでください。
- 電子レンジの近くで、本製品をご使用にならないでください。電子レンジによって、本製品の無線通信への電磁妨害が発生します。

この機器の使用周波数帯では、電子レンジなどの産業・科学・医療機器のほか工場の製造ラインで使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）および特定小電力無線局（免許を要しない無線局）が運用されています。

- 1 この機器を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局および特定小電力無線局が運用されていないことを確認してください。
- 2 万が一、この機器から移動体識別用の構内無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに電波の発射を停止したうえ、弊社サポートセンターにご連絡頂き、混信回避のための処置などについてご相談ください。
- 3 その他、この機器から移動体識別用の特定小電力無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、弊社サポートセンターにお問い合わせください。

本書の読み進め方

本書は以下のように読み進めてください。



目次

はじめに.....	6
内容物をご確認ください.....	6
ドライブ名「C:」「D:」.....	6
本製品の最新情報.....	6
表記上の注意.....	6
電波に関する注意.....	6
本書の読み進め方.....	7
1 概要.....	9
1.1 特長.....	9
1.2 ネットワーク構成例.....	9
1.3 対応コンピューター機種.....	10
1.4 対応オペレーティングシステム.....	10
1.5 他社製品との相互接続について.....	10
1.6 各部の名称と働き.....	10
1.7 同梱の CD-ROM について.....	11
1.8 設置時の注意.....	11
2 インストール.....	13
2.1 Windows 98/98SE/Me/2000/XP の場合.....	13
2.1.1 用意するもの.....	13
2.1.2 インストール.....	13
2.2 Windows NT4.0 の場合.....	14
2.2.1 インストール時のご注意.....	14
2.2.2 インストールを始める前に.....	15
2.2.3 インストール.....	16
3 本製品の取り付け.....	21
3.1 Windows 98/98SE/Me/2000 の場合.....	21
3.1.1 取り付け.....	21
3.1.2 ドライバーの確認.....	22
3.2 Windows XP の場合.....	23
3.2.1 取り付け.....	23
3.2.2 ドライバーの確認.....	24
3.3 Windows NT4.0 の場合.....	26
3.3.1 取り付け.....	26
3.3.2 インストールの確認.....	26
4 ネットワーク接続.....	29
4.1 Configuration Utility の設定.....	29
4.1.1 「基本設定」画面.....	29
4.1.2 「AP 検索」画面.....	33
4.1.3 「バージョン情報」画面.....	35
4.1.4 無線アイコンの表示.....	35
4.2 ネットワークの設定.....	36
4.2.1 Windows 98/98SE/Me の場合.....	36
4.2.2 Windows 2000/XP の場合.....	38
4.2.3 Windows NT 4.0 の場合.....	40
4.3 ネットワーク接続の確認.....	40
4.3.1 Configuration Utility での通信確認.....	40
4.3.2 マイネットワーク（ネットワークコンピュータ）からの確認.....	41
4.3.3 「PING」での確認.....	41
5 取り外しとアンインストール.....	43
5.1 取り外し.....	43
5.1.1 Windows 98/98SE/Me/2000 の場合.....	43
5.1.2 Windows XP の場合.....	43
5.1.3 Windows NT 4.0 の場合.....	43
5.2 アンインストール.....	44
5.2.1 Windows 98/98SE/Me/2000/XP の場合.....	44
5.2.2 Windows NT 4.0 の場合.....	44
5.3 本製品を一時的に使用しないとき.....	46
5.3.1 Windows 2000/XP の場合.....	46
5.3.2 Windows 98/98SE/Me の場合.....	47
5.3.3 Windows NT 4.0 の場合.....	48
A 付録.....	49
A.1 製品仕様.....	49
A.2 MAC アドレス.....	49
B 用語集.....	50
B.1 本製品に関する用語.....	50
B.2 ネットワーク関連の用語.....	50
C 工場出荷時設定.....	51
D トラブルシューティング.....	52
D.1 LED が消灯している.....	52
D.2 ドライバーが正しくインストールされていない.....	52
D.3 本製品の設定が正しくない.....	54
D.4 コンピューターのネットワーク設定が正しくない.....	55
D.5 電波の状態が悪い.....	55
E 保証とユーザーサポート.....	56
E.1 保証.....	56
E.2 ユーザーサポート.....	56
E.3 調査依頼書の内容について.....	56
E.4 最新ドライバーソフトウェアの入手方法.....	57
ご注意.....	57
商標について.....	57
マニュアルバージョン.....	57

1 概要

1.1 特長

CentreCOM WR110PCM V1 (以下、「WR110PCM V1」と略します) は以下の特長をもつ無線 LAN PC カードです。

●無線 LAN

- IEEE802.11b に準拠し、無線上での通信速度 11Mbps の通信が可能
- 1 ~ 14 チャンネルを切り替えて使用することが可能
- 「WR110PCM V1」無線 LAN PC カードを取り付けたノート型コンピューター同士で、無線通信を実現（「802.11 AdHoc」モード）
- 別売のアクセスポイント（CentreCOM WR110AP）を使用すれば、既存の有線 LAN 環境と無線 LAN 環境を統一したネットワークの構築が可能（「Infrastructure」モード）
- ローミング機能（複数のアクセスポイントがある場合、電波状態により、接続するアクセスポイントを自動的に切り替える機能）に対応
- Wi-Fi 認証取得

●セキュリティ

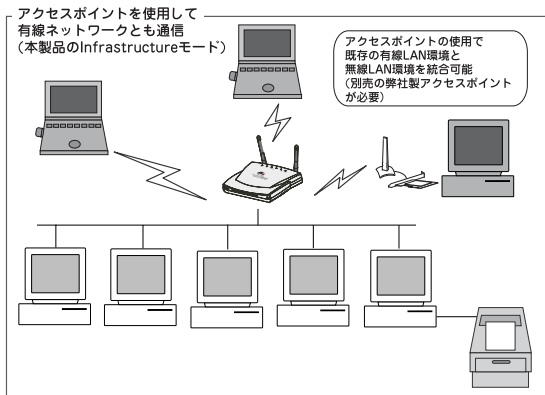
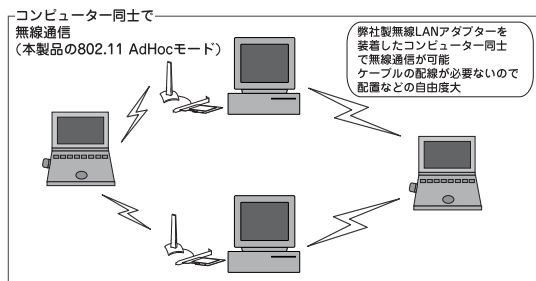
- 64bit/128bit WEP 方式による暗号化機能と SSID によるグループ識別機能をもつ
- IEEE 802.1x 対応 (Windows 2000/XP)

●操作性

- 接続先の設定をプロファイルとして複数登録可能
- 接続先のプロファイルをタスクバーから簡単に切り替え可能

1.2 ネットワーク構成例

本製品を使用すると、次の 2 種類の構成の無線 LAN を構築することができます。



*弊社製品同士の接続に関しては弊社ホームページをご確認ください。

1.3 対応コンピューター機種

本製品は、PC Card Standard に準拠した PC カード Type II スロットを搭載した、IBM PC/AT 互換機 (NEC PC98-NX 含む) で使用可能です。

1.4 対応オペレーティングシステム

本製品のドライバーとユーティリティーは、次のオペレーティングシステム (OS) に対応しています。

- Windows 98
- Windows 98 Second Edition
- Windows NT 4.0 (Service Pack 6a がインストールされていること)
- Windows 2000
- Windows Me
- Windows XP



本製品のインストールには 50MB の空きディスク容量が必要です。また、その他 (CPU、メモリー容量など) については、ご使用の OS で推奨されているスペックにてご使用いただけます。



Windows 98/98SE、Windows 2000、Windows Me、Windows XP の ACPI 機能には対応していません。

注意



注意

本製品を、Windows NT4.0 で使用する場合には、Service Pack 6a がインストールされなければなりません。「■ サービスパックの確認」(p.15) の手順を参照して、正しいサービスパックがインストールされていることを確認してください。Service Pack 6a がインストールされていない場合は、Service Pack 6a をインストールしてください。

1.5 他社製品との相互接続について

無線製品の接続に関するサポートにつきまして、弊社では、自社製品でかつ正常動作の確認ができている製品に限らせていただきます。

弊社ホームページの「製品 / 動作検証リスト」にて、サポート対象機種および相互接続確認をおこなっている機種のご紹介しております。

弊社ホームページ <http://www.allied-teleasis.co.jp/>

弊社で相互接続確認をおこなっている製品でも、サポート対象外とさせていただきますので、お問い合わせになる前に必ずホームページでサポートの有無をご確認ください。

1.6 各部の名称と働き

各部の名称と働きを説明します。

① PC カード本体

コンピューターの PC カードスロットに挿入し、LAN アダプターの機能を提供します。

② POWER/LINK LED

電源が正常に供給されているときに緑色で点滅、他の無線機器に接続しているときに緑色で点灯します。また、電源が供給されていないときには消灯します。

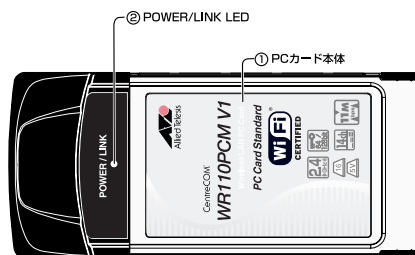


図 1.6.1 WR110PCM V1 外観図 (上面)

③警告ラベル

本製品を安全にご使用いただくための重要な情報が記載されています。必ずお読みください。

④シリアル番号シール

本製品のシリアル番号（製造番号）とリビジョンが記入されています。同じものが2枚同梱されており、パッケージ（外箱）にも貼付されています。同梱されているシリアル番号シールは、「製品保証書」に貼付してください。シリアル番号とリビジョンは、ユーザーサポートへの問い合わせ時に必要な情報です。

⑤MACアドレスラベル

本製品のMACアドレスが記入されています。MACアドレスについては、「A.2 MACアドレス」(p.49)をご覧ください。

⑥ファームウェアバージョンラベル

本製品のファームウェアのバージョンが記入されています。

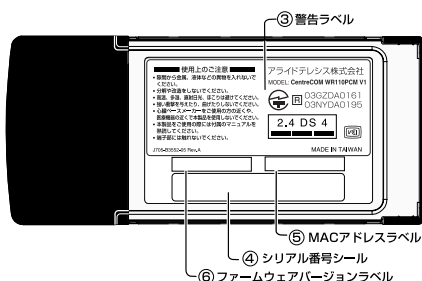


図 1.6.2 WR110PCM V1 外観図（下面）

図 1.6.2 中の **2.4 DS 4** 記号は、次の内容を意味します。

使用周波数帯域	2.4GHz 帯
変復調方式	DS-SS 方式
想定干渉距離	40m 以下
周波数変更の可否	全帯域を使用し、かつ「構内局」あるいは「特小局」帯域を回避可能

1.7 同梱の CD-ROM について

本製品をご使用になる前に、必ず同梱の CD-ROM に含まれる「README*」ファイルをお読みください。「README*」には、このマニュアルに記載されていない最新の情報が記載されています。



README_1ST (Read me first.) ファイルには、同梱の CD-ROM の詳細なディレクトリ構造や全体に関わることなどが記載されています。README_W98、README_WME、README_WNT、README_W2K、

README_WXP ファイルには、それぞれのドライバーに関する詳細情報が記載されています。

1.8 設置時の注意

本製品を設置する前に、「安全のために」(p.4)、「電波に関する注意」(p.6) を必ずお読みください。

無線通信をおこなう機器同士は、お互いのコンピューターを見通せる位置に設置してください。本製品のサービスエリアは、屋外で 300m、屋内で 80m（11Mbps 通信時は、屋外 155m、屋内 50m）になります。



注意

コネクタの端子にはさわらないでください。静電気を帯びた手（体）でコネクタの端子に触れると、静電気の放電により故障の原因となります。

本製品をコンピューターに取り付けたときに、内蔵アンテナ部（コンピューター本体の外に出る部分）には、無理な力を加えないでください。

- 物を落とす、手をつく
- 手や物を引っかける

など、無理な力を加えると、本製品の故障や破損の原因となります。



注意

上記の注意にしたがわず、誤った使い方をした場合に発生した故障につきましては、製品保証の対象外とさせていただきます。



注意

本製品に触れる前に、あらかじめ他の金属部分（水道の蛇口、ドアノブなど）に触れて体内の静電気を放電してください。このとき、ガス管など発火する危険性のあるものには、絶対に触れないようにしてください。

本製品の内部には、最新の IC 類が使用されています。ご使用中の静電気による故障対策はされていますが、他の機器との接続時などには、特に注意してください。お客様の不注意により生じた静電気などによる故障などにつきましては、保証の対象外となりますのであらかじめご了承ください。

2 インストール

本製品のドライバーとユーティリティをコンピューターにインストールする手順を説明します。



他の無線ネットワークアダプターのドライバーがインストールされている場合は、ドライバーを削除してから本製品のドライバーのインストールをおこなってください。

2.1 Windows 98/98SE/Me/ 2000/XP の場合

Windows 98/98SE/Me/2000/XP では、本製品のドライバーとユーティリティは付属のCD-ROMのセットアッププログラムを実行するだけで、一度にインストールすることができます。

2.1.1 用意するもの

- 本製品に同梱のCD-ROM
- 各OSがインストールされたコンピューター



各OSが、コンピューター購入時からあらかじめインストールされた形態で提供されたもの、すなわちプリインストール版である場合は、OSのバックアップCD-ROMが付属しているかどうかをご確認ください。バックアップCD-ROMが付属していない場合は、安全のため必ずメディアなどにバックアップをとった後でインストールを開始してください。バックアップの手順については、ご使用のコンピューターのマニュアルをご覧ください。



ハードディスク内のデータは、必ずメディアなどにバックアップをとった後で、ドライバーのインストールを開始してください。特に重要なデータについては、必ずバックアップをとられることをお勧めします。また、いかなる場合でも、データが消失または破損したことによる損害については、弊社はいかなる責任も負いかねますので、あらかじめご了承ください。

2.1.2 インストール



ユーティリティのインストールは、必ず本製品をコンピューターに取り付けていない状態でおこなってください。



本製品に触れる前に、あらかじめ他の金属部分（水道の蛇口、ドアノブなど）に触れて体内の静電気を放電してください。このとき、ガス管など発火する危険性のあるものには、絶対に触れないようにしてください。



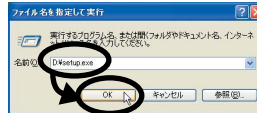
以下に説明する手順は一例です。お客様の環境によっては、手順などが異なる場合がありますので、あらかじめご了承ください。また、ここでは、Windows XP Professionalの画面を例に説明します。

- (1) コンピューターの電源をオンにし、Windowsを起動します。



Windows 2000をご使用の場合は「Administrator」所属のユーザー名、Windows XPをご使用の場合は「コンピューターの管理者」となっているユーザー名でログインしてください。

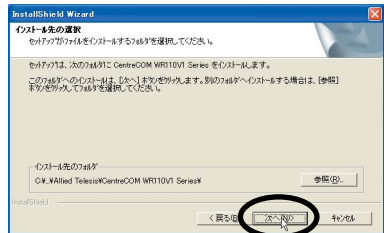
- (2) コンピューターのCD-ROMドライブに同梱のCD-ROMを挿入します。
- (3) 「スタート」→「ファイル名を指定して実行」を選択し「名前」に「D:\setup.exe」と入力して「OK」ボタンをクリックします（ここではCD-ROMドライブを「D:」と仮定しています）。



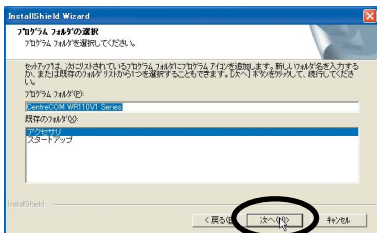
- (4) 「次へ」ボタンをクリックします。



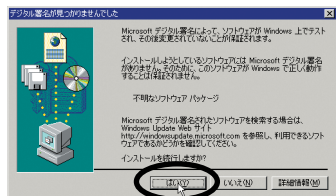
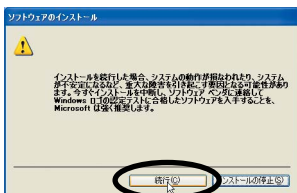
- (5) ユーティリティプログラムのインストール先を指定します。表示されているインストール先を変更したい場合は「参照」ボタンをクリックし、変更先を指定します。インストール先が決まったら、「次へ」ボタンをクリックします。



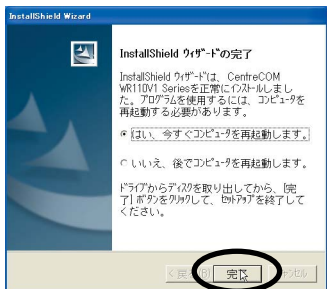
- (6) プログラムフォルダを確認して「次へ」ボタンをクリックするとセットアップが開始されます。



- (7) 「警告」や「デジタル署名」などのメッセージが表示された場合は「続行」ボタンまたは「はい」ボタンをクリックしてセットアップを続行します（弊社で動作確認をおこなっております）。



- (8) 「InstallShieldウィザードの完了」画面が表示されたら、CD-ROMドライブからCD-ROMを取り出して「完了」ボタンをクリックし、コンピュータを再起動します。



- (9) 「3 本製品の取り付け」(p.21)に進んでください。

2.2 Windows NT4.0の場合

本製品を Windows NT 4.0 上にインストールする手順を説明します。

本書では、下記の条件を仮定したインストール例を示します。

- ネットワークアダプター用ドライバーを含むネットワーク環境は全くインストールされておらず、これからインストールする
- Windows NT Workstation Ver. 4.0 を使用し、Windows NT が要求する周知合わせに対して、基本的にデフォルトで答える
- Service Pack 6a がインストールされている
- 「386」フォルダーがハードディスクにコピーされている



以下の作業をおこなう際は、「Administrator」所属のユーザー名でログオンしてください。

2.2.1 インストール時のご注意

本製品のインストールを始める前に、以下のことをご確認ください。各操作・設定の手順については Windows NT のマニュアル・ヘルプをご覧ください。



注意

Windows NT のハードウェア互換性リスト(Windows NT ケージに同梱されています)にあげられていないコンピューター機種で本製品をご使用になる場合は、お客様の責任においてご使用ください。それらのコンピューター機種で本製品をご使用になる場合は、ユーザーサポートの対象外とさせていただきますのであらかじめご了承ください。



注意

Windows NT では、ホットスワップ(活線挿抜)はできません。本製品の取り付け、取り外しをおこなう際には、必ずコンピューターの電源がオフになっていることをご確認ください。誤ってホットスワップ(活線挿抜)をおこなった場合に起こった障害に関しては、ユーザーサポートの対象外とさせていただきますので、ご了承ください。



注意

PC98-NX シリーズにインストールされた Windows NT のもとで本製品をご使用になる場合、NEC によって保証されていないインストール環境での使用は、お客様の責任においておこなってください。それらの環境で本製品をご使用になる場合は、ユーザーサポートの対象外とさせていただきますのであらかじめご了承ください。



注意

本製品のインストールを Windows NT のインストールと同時にこなうことは避けてください。必ず、Windows NT のインストールを完了した後で、本製品のインストールをおこなってください。Windows NT は Plug & Play をサポートしていないため、Windows NT と本製品のインストールを同時におこなうと、Windows NT のインストール中に本製品が使用するハード

ウェアリソースが他のデバイスと重複する恐れがあり、重複の回避に手間取ることがあります。



以下にあげる手順は一例です。お客様の環境によっては、手順や表示画面が異なることがあります。

2.2.2 インストールを始める前に

■用意するもの

- 本製品に同梱のCD-ROM
- Windows NT4.0(Service Pack 6a) がインストールされたコンピューター
- Windows NT Service Pack 6a



Windows NT が、コンピューター購入時にあらかじめインストールされた形態で提供されたもの、すなわちプリインストール版である場合は、Windows NT のバックアップ CD-ROM が付属しているかどうかをご確認ください。バックアップ CD-ROM が付属していない場合は、安全のため必ずメディアなどにバックアップをとった後でインストールを開始してください。バックアップの手順については、ご使用のコンピューターのマニュアルをご覧ください。



ハードディスク内のデータは、必ずメディアなどにバックアップをとった後で、ドライバーのインストールを開始してください。特に重要なデータについては、必ずバックアップをとられることをお勧めします。また、いかなる場合でも、データが消失または破損したことによる損害については、弊社はいかなる責任も負いかねますので、あらかじめご了承ください。

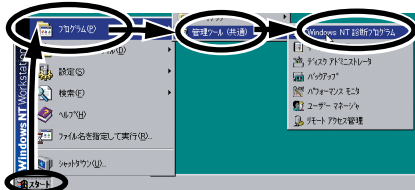


コンピューターに他のネットワークアダプターがインストールされている場合は、いったん削除してから本製品のドライバーとユーティリティをインストールしてください。他のアダプターがインストールされている状態で本製品のドライバーをインストールすると、動作が不安定になることがあります。

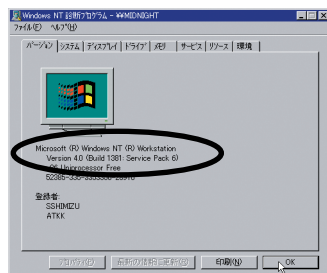
■サービスパックの確認

本製品をインストールする前に、Windows NT のサービスパックがインストールされているかを確認してください。確認の手順は、次のとおりです。

- (1) 「スタート」メニューから、「プログラム」→「管理ツール」→「Windows NT 診断プログラム」を選択します。



- (2) 「バージョン」タブに表示される「Service Pack」の数字が「6」であることを確認します。



本製品のインストール後、コンピューターを再起動する前に、必ず、サービスパックの再インストールをおこなってください。サービスパックをインストールせずにコンピューターを再起動すると、Windows NT が起動できなくなることがあります。

■リソースの確認

Windows NT は、Plug & Play をサポートしていないため、本製品が使用するリソースの値を設定しなければなりません。そのために、ドライバーをインストールする前に、リソースの空き状況を確認する必要があります。

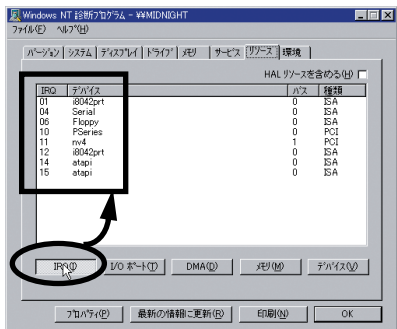
本製品のドライバーが使用するリソースの工場出荷時の値が、既に他のデバイスによって使用されている場合は、本製品の設定を変更します。本製品の設定を変更するには、「2.2.3 インストール」(p.16)の手順にしたがってドライバーとユーティリティプログラムをインストールした後、コンピューターに本製品を取り付けずに再起動し、「アダプタ」の「プロパティ」でリソースの値を変更します。手順については、「D トラブルシューティング」の「○ 対応方法 (Windows NT4.0 の場合)」(p.53)を参照してください。

本製品のドライバーが使用する工場出荷時のリソース値は次のとおりです。

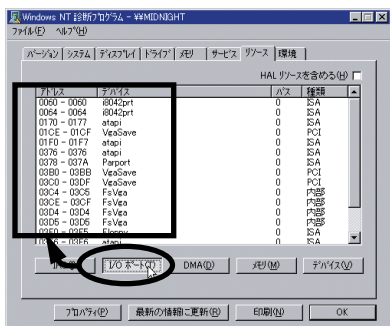
- IRQ (インタラプト) 10
- I/Oポート (I/O ベースアドレス) C000

リソースの空き状況は、次の手順で調べます。

- (1) 「Windows NT 診断プログラム」の「リソース」タブをクリックします。
- (2) 「IRQ」ボタンをクリックし、インタラプトの空き状況を確認します。



- (3) 「I/Oポート」ボタンをクリックし、I/O ベースアドレスの空き状況を確認します。



注意

コンピューターにあらかじめ組み込まれているデバイスの中には「Windows NT 診断プログラム」上に表示されないものもあります。コンピューターのマニュアルと「Windows NT 診断プログラム」の両方を用いて確認をおこなってください。

- (4) 「Windows NT 診断プログラム」を終了します。

2.2.3 インストール



注意

ユーティリティのインストールは、必ず本製品をコンピューターに取り付けていない状態でおこなってください。



注意

本書では、Windows NT がインストールされたコンピューターのハードディスクに Windows NT のインストールディスクの「i386」フォルダー内のファイルが格納されていることを前提として説明します。ご使用のコンピューターに「i386」内のファイルが存在しない場合は、Windows NT のインストールディスクから「i386」をあらかじめコピーしておいてください。

Windows NT では、ドライバーとユーティリティを下記の2段階に分けてインストールします。

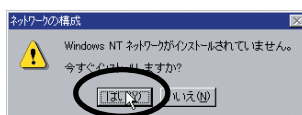
- Windows NT ネットワークとドライバーをインストールする
- ユーティリティをインストールする

■ネットワークとドライバーのインストール

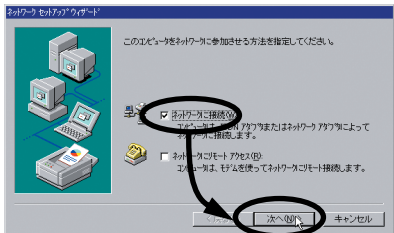
- (1) 「スタート」→「設定」→「コントロールパネル」内で「ネットワーク」アイコンをダブルクリックします。



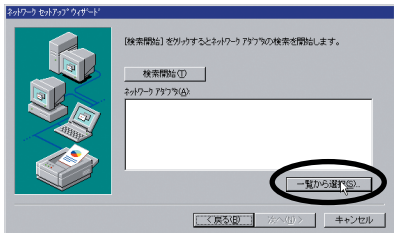
- (2) 「今すぐインストールしますか？」と表示されたら「はい」ボタンをクリックします。



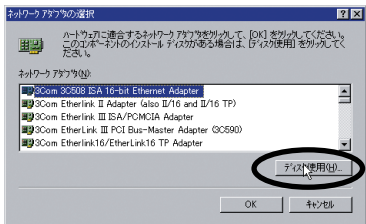
- (3) 「ネットワークに接続」にチェックを付けて「次へ」ボタンをクリックします。



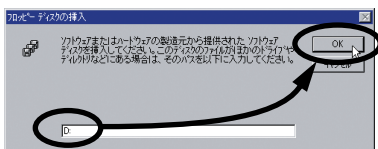
- (4) 「一覧から選択」ボタンをクリックします。



- (5) 「ディスク使用」ボタンをクリックし、本製品に同梱の CD-ROM をコンピューターの CD-ROM ドライブに挿入します。

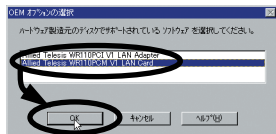


- (6) 「D:」と入力して「OK」ボタンをクリックします。

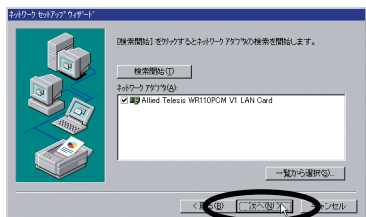


ここでは、コンピューターの CD-ROM ドライブを「D:」と仮定して説明しています。ご使用のコンピューターの CD-ROM ドライブの文字を入力してください。

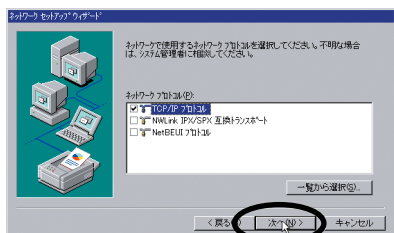
- (7) 「Allied Telesis WR110PCM V1 LAN Card」を選択して「OK」ボタンをクリックします。



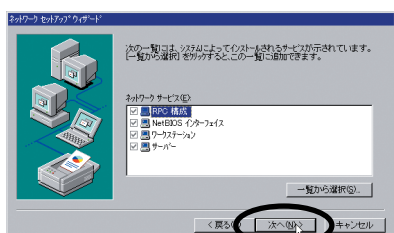
- (8) 「次へ」ボタンをクリックします。



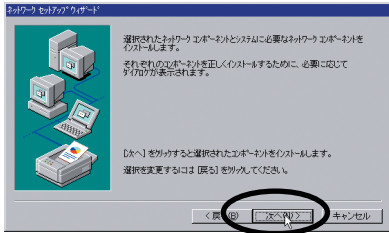
- (9) 「次へ」ボタンをクリックします。



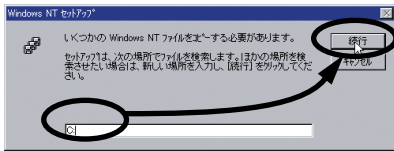
- (10) 「次へ」ボタンをクリックします。



(11) 「次へ」ボタンをクリックします。

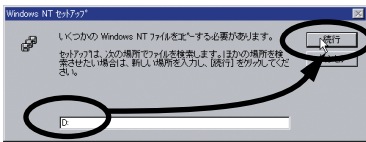


(12) 以下の画面が表示されたら「C:」と入力して「続行」ボタンをクリックします。



ここでは、「i386」がコピーされているドライブが「C:」であることを前提にしています。実際に「i386」が格納されているドライブ名を指定してください。

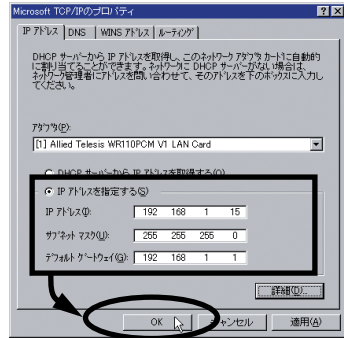
(13) (12)の画面に引き続き、以下の画面が表示されたら「D:」と入力して「続行」ボタンをクリックします。



(14) 「DHCPを使用しますか?」と表示されたら「いいえ」ボタンをクリックします。



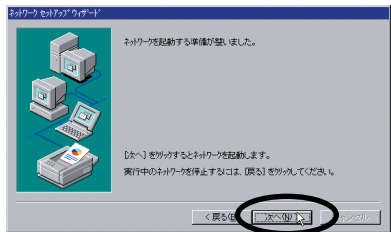
(15) TCP/IPのプロパティの設定をご使用の環境に合わせて設定し「OK」ボタンをクリックします。



(16) 「次へ」ボタンをクリックします。



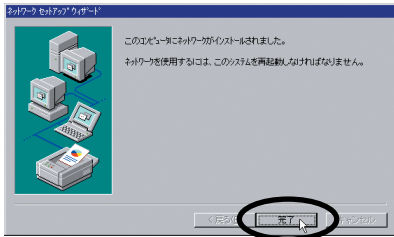
(17) 「次へ」ボタンをクリックします。



(18) 「ワークグループ名」を入力して「次へ」ボタンをクリックします。



(19) 「完了」ボタンをクリックします。



(20) 「再起動しますか？」と表示されたら「いいえ」ボタンをクリックします。



(21) Service Pack 6a を再インストールします。



注意

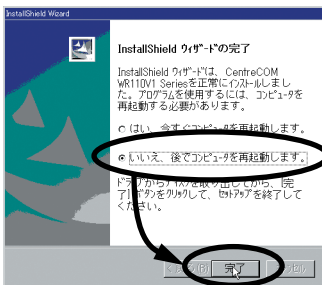
本製品のインストール後、コンピュータを再起動する前に、必ず、サービスパックの再インストールをおこなってください。サービスパックをインストールせずにコンピュータを再起動すると、Windows NT が起動できなくなることがあります。

引き続き、以下の「■ユーティリティーのインストール」(p.19)の作業に進みます。

■ユーティリティーのインストール

(1) 「2.1.2 インストール」(p.13)の(2)から(6)までの手順を実行します。

(2) 「InstallShieldウィザードの完了」画面が表示されたら、「いいえ、後でコンピュータを再起動します。」が選択されていることを確認して「完了」ボタンをクリックします。



(3) CD-ROM ドライブから同梱の CD-ROM を取り出して、コンピュータの電源をオフにします。

(4) 「3 本製品の取り付け」の「3.3 Windows NT4.0 の場合」(p.26)に進んでください。

3 本製品の取り付け

3.1 Windows 98/98SE/Me/2000 の場合

3.1.1 取り付け



本製品に触れる前に、あらかじめ他の金属部分（水道の蛇口、ドアノブなど）に触れて体内の静電気を放電してください。このとき、ガス管など発火する危険性のあるものには、絶対に触れないようにしてください。

本製品をコンピューターに取り付ける手順を説明します。Windows 98/98SE/Me/2000 はホットスワップ（活線挿抜）をサポートしていますので、コンピューターの電源をオンにした状態で本製品をPC カードスロットに挿入することができます。以下の手順で本製品の取り付けをおこなってください。

- (1) コンピューターの電源をオンにします。



Windows 2000 をご使用の場合は、「Administrator」グループ所属のユーザー名でログオンしてください。

- (2) 「CentreCOM WR110PCM V1」の文字が印刷された面を上にして、本製品をコンピューターの PC カードスロットに挿入し、カチッと手応えがあるまで押し込んでください。



コンピューター機種によっては、下に向けて装着するものもあります。間違って装着した場合、本製品やご使用のコンピューターの故障の原因となります。PC カード装着に関しては、必ずご使用のコンピューターのマニュアルなどをご覧ください。

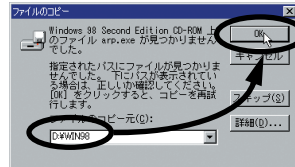
本製品をPC カードスロットに挿入すると、Windows 98/98SE/Me/2000 は Plug & Play 機能により本製品を検出し、ドライバーのインストールを自動的に完了します。



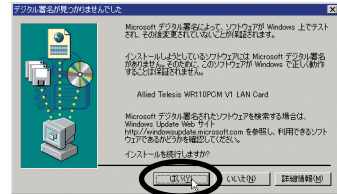
Windows 98 をご使用の場合に、以下の画面が表示された際は、CD-ROMドライブにWindows の CD-ROM を挿入して「OK」ボタンをクリックしてください。



Windows の CD-ROM を挿入後、以下の画面が表示された際は、「D:\WIN98」と指定して「OK」ボタンをクリックしてください。



Windows 2000 をご使用の場合に、以下のデジタル署名の画面が表示された際は「はい」ボタンをクリックして、インストールを続行してください。



3.1.2 ドライバーの確認

「3.1.1 取り付け」の手順で、本製品のドライバーが正しくインストールされたことを確認します（画面例は Windows 98 を使用します）。

■ デバイスマネージャによる確認

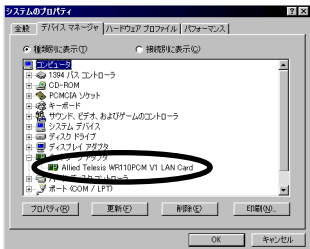
- (1) 「コントロールパネル」内の「システム」アイコンをダブルクリックします。



- (2) 「デバイスマネージャ」タブを表示します。正常にインストールされている「ネットワークアダプタ」の下に「Allied Telesis WR110PCM V1 LAN Card」と表示されます。

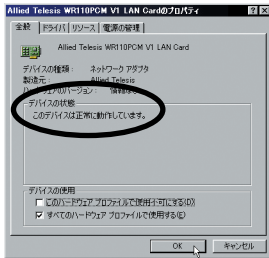


Windows 2000 の場合は「ハードウェア」タブを表示して、「デバイスマネージャ」をクリックしてください。



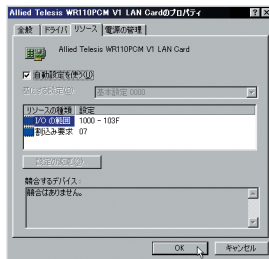
本製品のアイコンに「×」「?」「!」などのマークが付いていたり、あるいはアイコンが「ネットワークアダプタ」の下ではなく、「不明なデバイス」や「その他のデバイス」の下にある場合は、インストールに失敗しています。詳しくは、「D トラブルシューティング」(p.52) をご覧ください。

- (3) 「Allied Telesis WR110PCM V1 LAN Card」をダブルクリックします。「全般」タブで「デバイスの状態」欄に「このデバイスは正常に動作しています。」と表示されていることをご確認ください。



- (4) 本製品が使用する I/O の範囲 (I/O アドレス)、割り込み要求 (IRQ) などは、OS によって自動的に設定されます。「リソース」タブを選択すると、これらを確認することができます。

この例では、リソースの「I/O の範囲」が「1000 - 103F」「割り込み要求」が「07」に、自動的に設定されています。

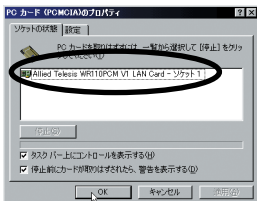


■ PCカードによる確認

- (1) タスクバーの「PCカード (PCMCIA)」アイコンをダブルクリックします。



- (2) 該当するソケットに「Allied Telesis WR110PCM V1 LAN Card」が表示されていることを確認します。



- (3) 引き続き、「4 ネットワーク接続」(p.29)に進んでください。

3.2 Windows XP の場合

3.2.1 取り付け



本製品に触れる前に、あらかじめ他の金属部分（水道の蛇口、ドアノブなど）に触れて体内の静電気を放電してください。このとき、ガス管など発火する危険性のあるものには、絶対に触れないようにしてください。

本製品をコンピューターに取り付ける手順を説明します。Windows XP はホットスワップ（活線挿抜）をサポートしていますので、コンピューターの電源をオンした状態で本製品を PC カードスロットに挿入することができます。以下の手順で本製品の取り付けをおこなってください。

- (1) コンピューターの電源をオンにします。



「コンピューターの管理者」となっているユーザー名でログオンしてください。

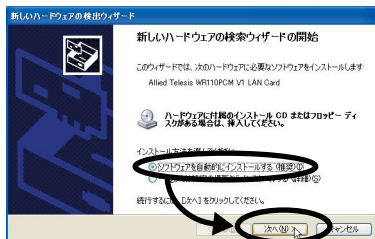
- (2) 「CentreCOM WR110PCM V1」の文字が印刷された面を上にして、本製品をコンピューターの PC カードスロットに挿入し、カチッと手応えがあるまで押し込んでください。



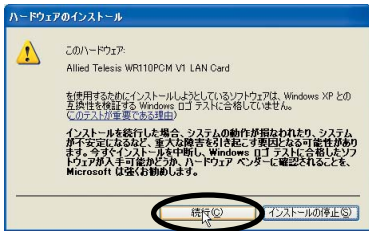
コンピューター機種によっては、下に向けて装着するものもあります。間違えて装着した場合、本製品やご使用のコンピューターの故障の原因となります。PC カード装着に関しては、必ずご使用のコンピューターのマニュアルなどをご覧ください。

本製品を PC カードスロットに挿入すると、Windows XP は Plug & Play 機能により本製品を検出します。

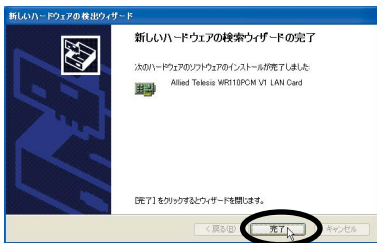
- (1) 「新しいハードウェアの検出ウィザード」が表示されたら、「ソフトウェアを自動的にインストールする（推奨）」が選択されていることを確認して「次へ」ボタンをクリックします。



- (2) ログテストに関する画面が表示された場合は「続行」ボタンをクリックします。



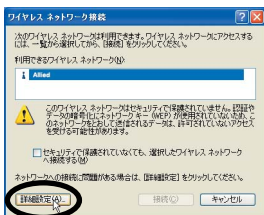
- (3) 「新しいハードウェアの検索ウィザードの完了」画面が表示されたら「完了」ボタンをクリックします。



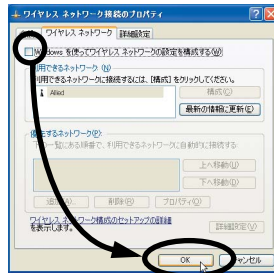
- (4) 画面右下の「ワイヤレスネットワーク接続」アイコンを右クリックして「利用できるワイヤレスネットワークの表示」を選択します。




- (5) 「ワイヤレスネットワーク接続」画面で「詳細設定」ボタンをクリックします。



- (6) 「ワイヤレスネットワーク接続のプロパティ」画面内の「Windows を使ってワイヤレスネットワークの設定を構成する」の「チェックを外して」、「OK」ボタンをクリックします。

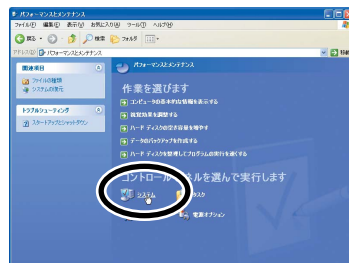


 本製品の設定を Configuration Utility でおこなうために Windows XP 標準の設定ユーティリティを無効にしておきます。

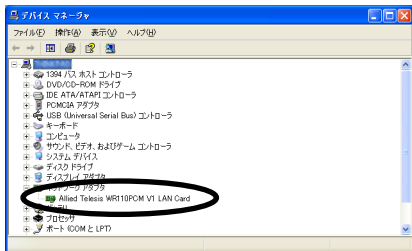
3.2.2 ドライバーの確認

本製品のドライバーが正しくインストールされたことを確認します。

- (1) 「コントロールパネル」内で「パフォーマンスとメンテナンス」をクリックして、以下の画面が表示されたら「システム」をクリックします。



- (2) 「ハードウェア」タブ内の「デバイスマネージャ」ボタンをクリックします。正常にインストールされていると「ネットワークアダプタ」の下に「Allied Telesis WR110PCM V1 LAN Card」と表示されています。



本製品のアイコンに「×」「?」「!」などのマークが付いていた、あるいはアイコンが「ネットワークアダプタ」の下ではなく、「不明なデバイス」や「その他のデバイス」の下にある場合は、インストールに失敗しています。詳しくは、「Dトラブルシューティング」(p.52)をご覧ください。

- (3) 「Allied Telesis WR110PCM V1 LAN Card」をダブルクリックします。「全般」タブで「デバイスの状態」欄に「このデバイスは正常に動作しています。」と表示されていることをご確認ください。



- (4) 本製品が使用する I/O の範囲 (I/O アドレス)、IRQなどは、OS によって自動的に設定されます。「リソース」タブを選択すると、これらを確認することができます。この例では、リソースの「I/O の範囲」が「FF40 - FF7F」「IRQ」が「07」に、自動的に設定されています。



- (5) 引き続き、「4 ネットワーク接続」(p.29)に進んでください。

3.3 Windows NT4.0の場合



以下の作業をおこなう際は、「Administrator」所属のユーザー名でログオンしてください。

3.3.1 取り付け



本製品に触れる前に、あらかじめ他の金属部分（水道の蛇口、ドアノブなど）に触れて体内の静電気を放電してください。このとき、ガス管など発火する危険性のあるものには、絶対に触れないようにしてください。

本製品をコンピューターに取り付ける手順を説明します。

- (1) コンピューターの電源がオフになっていることを確認します。
- (2) 「WR110PCM V1」の文字が印刷された面を上にして、本製品をコンピューターのPCカードスロットに挿入し、カチッと手応えがあるまで押し込んでください。



コンピューターの機種によっては、下に向けて装着するものがあります。間違っても装着した場合、本製品やご使用のコンピューターの故障の原因となりますので、PCカードの装着に関しては、必ず、ご使用のコンピューターのマニュアルをご覧ください。

- (3) コンピューターの電源をオンにします。



本製品のインストール後、初めて本製品をコンピューターに取り付けて再起動したとき、コンピューターが正しく起動しないなどの問題が発生した場合は、本製品のリソースが別のデバイスと競合していることが考えられます。「Dトラブルシューティング」の「D.2.4 リソース値重複の回避」(p.53)を参照して、リソースの設定を変更してください。

3.3.2 インストールの確認

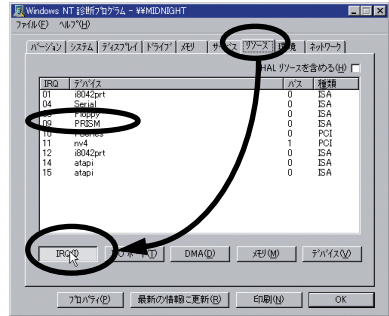
コンピューターの再起動後、本製品が正しくインストールされていることを確認します。

●リソース値の確認

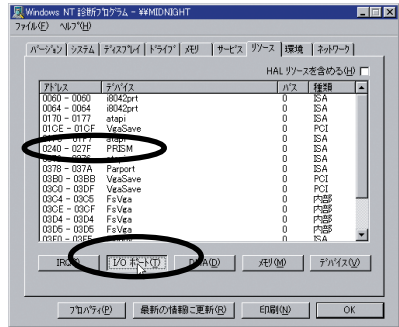
コンピューターを再起動すると、本製品に対してリソース（I/Oアドレス、インタラプト）が割り当てられます。次の手順で、Windows NT 診断プログラムを使用して、割り当てられた値を確認してください。

- (1) 「スタート」→「プログラム」→「管理ツール」→「Windows NT 診断プログラム」を選択します。

- (2) 「リソース」タブをクリックし、「IRQ」ボタンをクリックして、インタラプトの値を確認します。本製品は「PRISM」と表示されています。

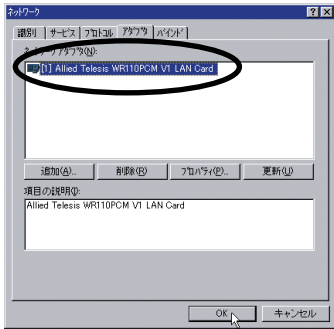


- (3) 「I/Oポート」ボタンをクリックして、I/O ベースアドレスの値を確認します。



●アダプターの確認

- (1) 「コントロールパネル」の「ネットワーク」アイコンをダブルクリックします。
- (2) 「アダプタ」タブをクリックし、「ネットワークアダプタ」に、「Allied Telesis WR110PCM V1 LAN Card」が表示されていることを確認します。



- (3) 引き続き、「4 ネットワーク接続」(p.29)に進んでください。

4 ネットワーク接続

本製品を使用してネットワークに接続するには、本製品のワイヤレス設定とネットワークの設定をおこなう必要があります。

4.1 Configuration Utility の設定

本製品の設定は Configuration Utility を使用しておこないます。また、設定の際には以下の手順をおこなってください。

- プロファイルを追加する
- 各設定項目を設定する
- 設定した内容をプロファイルとして保存する



上記の手順で設定をおこなわないと、既存のプロファイルが上書きされてしまう場合がありますのでご注意ください。



手順の説明には、Windows XP の画面例を使用します。

4.1.1 「基本設定」画面

- (1) タスクバーに表示されている無線アイコンをダブルクリックします。

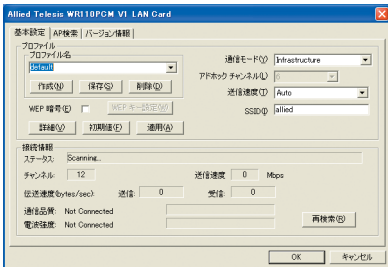


タスクバーに表示される無線アイコンは、通信モードの設定などにより異なります。無線アイコンの種類については、「4.1.4 無線アイコンの表示」(p.35)を参照してください。



タスクバーに無線アイコンが表示されていない場合は、「スタート」→「すべてのプログラム」(「プログラム」)→「CentreCOM WR110V1 Series」→「Configuration Utility」を選択すると、アイコンが表示されます。

- (2) 設定画面が表示されます。



- 「プロファイル名」
通信モード、SSID、WEP 暗号などの設定をプロファイルとして保存しておくことができます。工場出荷時の設定は「default」になっています。プロファイル名に使用できる文字は半角英数字および半角記号で 32 文字以内、全角文字で 16 文字以内です。また、複数のプロファイルを登録しておくことにより、用途に応じて設定を切り替えることができます。登録できるプロファイル数は最大「100 個」です。登録方法については「■プロファイルの追加」(p.31)を参照してください。



Configuration Utility の設定では、各設定を始める前に、プロファイルの作成からおこなってください。

- 「作成」
プロファイルを作成する際にクリックします。各設定をする前にこのボタンをクリックしてプロファイルを作成してください。
- 「保存」
プロファイルを保存する際にクリックします。プロファイル作成後、各設定が終了したらこのボタンをクリックしてください。
- 「削除」
プロファイルを削除する際にクリックします。削除するプロファイルを選択したらこのボタンをクリックしてください。
- 「通信モード」
無線 LAN のネットワーク構成を設定します。アクセスポイントを使用してネットワーク接続する場合には、「Infrastructure」、本製品を取り付けたクライアント同士で通信する場合には「802.11 AdHoc」を選択します。工場出荷時の設定は「Infrastructure」です。



注意 本製品を「Infrastructure」モードに設定し、弊社無線 LAN アクセスポイント「CentreCOM WR211AP」と通信をおこなう際には、WR211AP のファームウェアのバージョンを 4.5.5H またはそれ以降に更新してご使用ください。更新しないで通信をおこなった場合、通信が不安定になる場合があります。



注意 本製品を「802.11 AdHoc」モードに設定し、弊社無線 LAN PC カード「CentreCOM WR211PCM / WR211PCM plus」と通信する際には、WR211PCM/WR211PCM plus のファームウェアおよびドライバは最新のものをご使用ください。最新のものを使用せずに通信をおこなった場合、通信が不安定になる場合があります。

- 「アドホックチャンネル」
「802.11 AdHoc」で通信する際に使用するチャンネルを「1」から「14」まで選択できます。工場出荷時の設定は「6」になっています。
- 「送信速度」
送信速度は、「1 Mbps」「2 Mbps」「1 or 2Mbps」「5.5 Mbps」「11 Mbps」「Auto」の中から選択できます。帯域を有効に利用し、最適な速度で通信を実行するには、デフォルトの「Auto」の設定のままでご使用ください。工場出荷時の設定は「Auto」です。

- 「SSID」
無線 LAN を構成する無線機器同士を識別する名前です。同じネットワークに属する無線機器は、同じ SSID を設定します。SSID は、半角英数字および半角記号で 32 文字以内に設定します（大文字、小文字も区別されます）。工場出荷時の設定は、「falled」です。
SSID は、セキュリティ確保のために、デフォルトの設定を変更して独自の SSID を設定されることをお勧めします。



「SSID」欄を空白にしておくで「ANY」として接続されます（大文字で「ANY」と設定しても小文字で「any」と設定しても「ANY」として接続されます）。「ANY」はどのような SSID を設定した無線 LAN にも接続することが可能になり、ホットスポットなどで使用されることがあります。

- 「WEP 暗号」
WEP キーによる暗号化をおこなうかどうかを指定します。暗号化をおこなう場合はチェックボックスにチェックを入れます。工場出荷時の設定は無効になっています。
- 「WEP キー設定」
「WEP 暗号」を使用する際の WEP キーを設定します。設定方法については「■ 「WEP 暗号」」(p.32) を参照してください。
- 「詳細」
認証方法、ブリアンプルタイプ、RTS しきい値などの設定をおこないます。設定方法については「■ 「詳細」」(p.33) を参照してください。
- 「初期値」
設定画面内の設定値を工場出荷時設定（デフォルト値）に戻します。工場出荷時設定については「C 工場出荷時 設定」(p.51) を参照してください。
- 「適用」
変更したプロファイルを本製品に適用する際にクリックします。
- 「ステータス」
現在の通信モード、SSID、接続先の MAC アドレスが表示されます。
- 「チャンネル」
通信に使用しているチャンネルが表示されます。
- 「送信速度」
送信速度が表示されます。
- 「伝送速度」
「送信」と「受信」の際の伝送速度が表示されます。

- 「通信品質」
ビーコンの信号強度とノイズレベルの関係から求めた値が下記の 5 段階で表示されます。

Excellent	非常に良い
Good	良い
Fair	普通
Poor	悪い
Not Connected	利用不可

- 「電波強度」
アクセスポイントのビーコンの信号強度から求めた値が下記の 5 段階で表示されます。

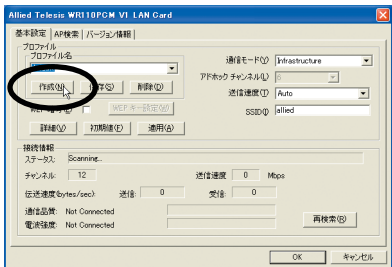
Excellent	非常に強い
Good	強い
Fair	普通
Poor	弱い
Not Connected	利用不可

- 「再検索」
アクセスポイントの検索を開始します。

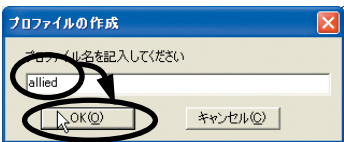
■プロフィールの追加

各設定項目を設定する前に、プロフィールを追加します。

- (1) 基本設定画面で「作成」ボタンをクリックします。



- (2) プロフィール名を入力して「OK」ボタンをクリックします。

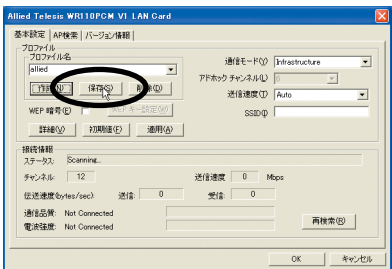


プロフィール名に使用できる文字は、半角英数字および半角記号で32文字、全角文字で16文字までです。



プロフィール名には用途などに合わせてわかりやすい名前を付けてと便利です（例：会社で使用する場合にプロフィール名を「会社」にするなど）。

- (3) 各設定項目を設定します。各項目の設定方法については、「4.1.1 「基本設定」画面」(p.29)、「■ 「WEP 暗号」」(p.32)を参照してください。
- (4) 設定が終了したら「保存」ボタンをクリックして、プロフィールを保存します。



設定を変更した後は、必ず「保存」ボタンをクリックしてください。「保存」ボタンをクリックしないと、プロフィールは保存されません。

■使用プロフィールの切り替え

登録したプロフィールを切り換える方法は、以下の2種類です。

- A. タスクバーから切り替える

- (1) タスクバーの Configuration Utility アイコンを右クリックします。画面例では、現在のプロフィールが「allied」になっています。

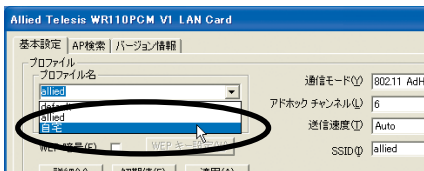


- (2) 使用するプロフィールを選択してクリックします。画面例では、プロフィールを「自宅」に切り替えています。

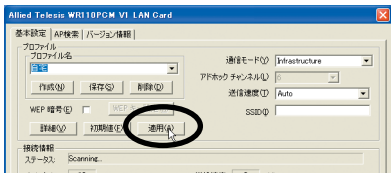


- B. ユーティリティの「基本設定」タブで切り換える

- (1) 「基本設定」タブを表示してプロフィール名から使用するプロフィールを選択します。画面例では、「自宅」を選択しています。



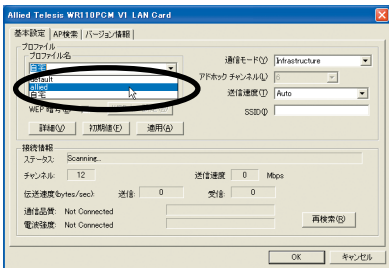
(2) 「適用」ボタンをクリックします。



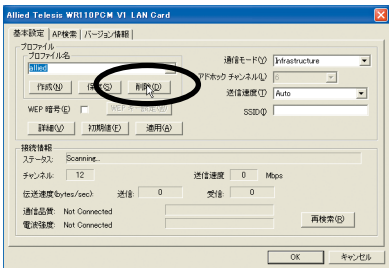
■プロファイルの削除

保存したプロファイルを削除する方法を説明します。

(1) 基本設定画面内のプロファイル名から削除するプロファイルを選択します。



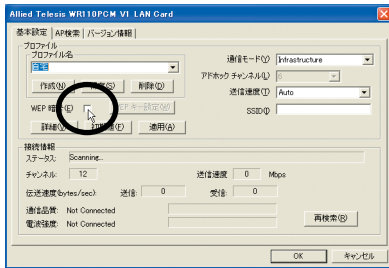
(2) 「削除」ボタンをクリックします。



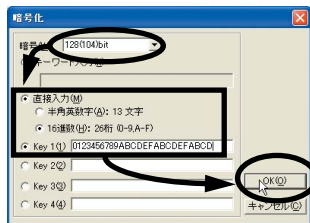
保存されているプロファイルをすべて削除した場合、工場出荷時に設定されているプロファイル「default」のみが残ります。

■「WEP 暗号」

(1) 「WEP 暗号」の右のチェックボックスをクリックします。



(2) 暗号強度 (64bit または 128bit)、入力方式 (キーワード入力または直接入力)、デフォルトキー (Key1 ~ Key4) を選択して、「OK」ボタンをクリックします。



設定したWEPキーを無効にする場合は、「WEP 暗号」チェックボックスのチェックを外してください。WEP キーを変更する場合は「WEP キー設定」をクリックして再設定してください。



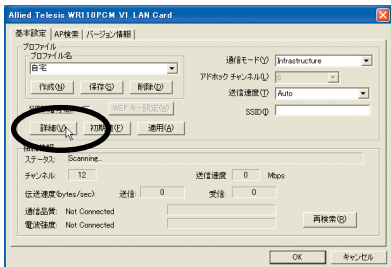
WEP 暗号の文字入力の規則については下記の表を参照してください。

	64bit	128bit
キーワード入力	半角英数字 :31 文字以内	半角英数字 :31 文字以内
直接入力	半角英数字 :5 文字 16 進数 :10 桁	半角英数字 :13 文字 16 進数 :26 桁

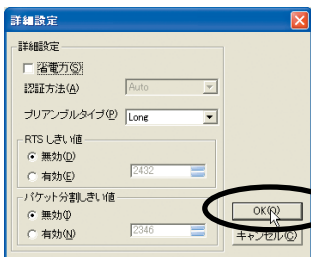
(3) 設定を保存して適用させるには、プロファイルの「保存」ボタンをクリックしてから「適用」ボタンをクリックしてください。引き続き他の項目を設定する場合は、他の項目の設定に進んでください。

■ 「詳細」

- (1) 「詳細」 ボタンをクリックします。



- (2) 各項目の設定をおこない「OK」ボタンをクリックします。



- 「省電力」**
 チェックを付けると、送信するデータがないときは本製品はスリープモードになります。また定期的に受信が必要なデータがあるかどうかチェックします。工場出荷時の設定は「無効」になっています。
- 「認証方法」**
 WEP 暗号が有効の場合のみ認証方法を「Auto」「Open」「Shared key」から選択できます。通常は「Auto」でご使用ください。工場出荷時の設定は「Auto」になっています。
- 「ブリアンプルタイプ」**
 「Long」「Short」から選択できます。「Short」を選択するとスループットが向上しますが、アクセスポイント側も設定を合わせる必要があります。工場出荷時の設定は「Long」になっています。
- 「RTSしきい値」**
 パケットを送信する際のRTS/CTS制御を開始するしきい値を指定します。使用した場合、クライアント全体のパフォーマンス低下を回避できますが、1台として見た場合はスループットが低下しますので、使用環境を考慮して使用してください。工場出荷時の設定は「無効」になっています。
- 「パケット分割しきい値」**
 パケットを送信する際のパケットを分割するしきい値を指定します。同時に通信をしているクライアントが多数の場合には、全体のスループットは向上しますが、1台として見た

場合はスループットは低下していることとなります。多数のクライアントが同時に長いパケット長のデータを連続して送信する環境以外では「無効」にして使用してください。工場出荷時の設定は「無効」になっています。

- (3) 「OK」ボタンをクリックして設定画面を閉じます。
- (4) 設定を保存して適用させるには、プロファイルの「保存」ボタンをクリックしてから「適用」ボタンをクリックしてください。引き続き他の項目を設定する場合は、他の項目の設定に進んでください。

4.1.2 「AP 検索」画面

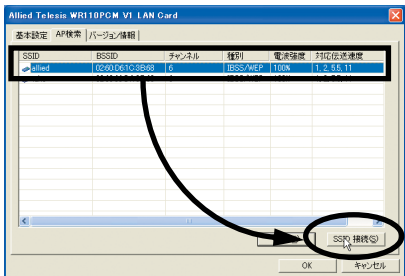
「AP 検索」タブでは、本製品で接続可能なアクセスポイントまたは、アドホックネットワークを検索、接続することができます。

- (1) 「検索」ボタンをクリックすると、本製品で接続可能なアクセスポイントまたは、アドホックネットワークが表示されます。

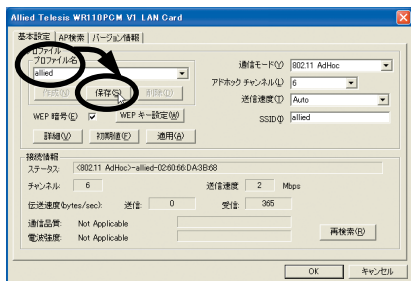


- 「SSID」**
 相手先の SSID が表示されます。
- 「BSSID」**
 相手先の BSSID が表示されます。
- 「チャンネル」**
 相手先の使用チャンネルが表示されます。
- 「種別」**
 WEP 暗号が設定されているかどうかを確認できます。
- 「電波強度」**
 電波の強度が表示されます。電波強度はブローブ応答の信号強度に基づいた値を使用しています。
- 「対応伝送速度」**
 相手先が対応している伝送速度が表示されます。

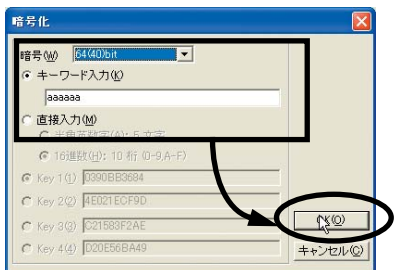
(2) 接続する通信相手を選択して「SSID 接続」ボタンをクリックします。



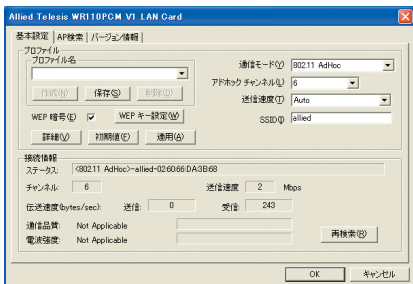
(4) 設定を保存する場合は「プロファイル名」を入力して「保存」ボタンをクリックします。



! 接続する相手に WEP 暗号が設定されていると以下のような「暗号化」画面が表示されますので、相手に合わせた暗号を入力して「OK」ボタンをクリックします。



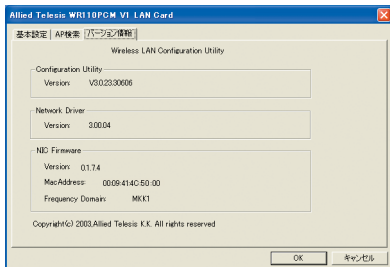
(3) 接続に成功すると「基本設定」タブが表示されます。



! プロファイル名は空欄になっています。

4.1.3 「バージョン情報」画面

「バージョン情報」タブをクリックすると以下の画面が表示されます。



- 「Configuration Utility」
ユーティリティのバージョンが表示されています。
- 「Network Driver」
本製品のドライバーのバージョンが表示されています。
- 「NIC Firmware」
本製品のファームウェアのバージョン、MAC アドレスなどが表示されています。
- 「Frequency Domain」
「MKK1」は使用可能な無線チャンネルの範囲が 1 から 14 チャンネルであることを示しています。

4.1.4 無線アイコンの表示

Configuration Utility をインストールすると、タスクバーに以下のような無線アイコンが表示されます。それぞれのアイコンは以下のような通信状態を示しています。

通信状態が良好な場合



通信状態が不良な場合



検索中の場合



4.2 ネットワークの設定

Configuration Utility を使用して本製品の設定をおこなったら、コンピュータのネットワーク設定をおこないます。

4.2.1 Windows 98/98SE/Me の場合



ここでは Windows 98 の画面を使用して説明します。

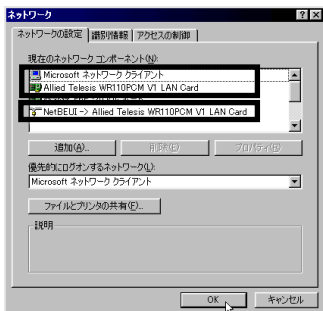
■ 「NetBEUI」を使用したファイルなどの共有

コンピュータについて以下の設定が必要になります。

- 「NetBEUI」「Microsoft ネットワーククライアント」の確認
- ユーザー情報、または識別情報（コンピュータ名、ワークグループ）の確認
- コンピュータの共有設定（ハードディスク・プリンターなどの共有）

○ 「NetBEUI」「Microsoft ネットワーククライアント」の確認

- (1) 「スタート」→「設定」→「コントロールパネル」を選択します。
- (2) 「ネットワーク」アイコンをダブルクリックします。
- (3) 「ネットワークの設定」タブの「現在のネットワークコンポーネント」に、「NetBEUI」「Microsoft ネットワーククライアント」と「Allied Telesis WR110PCM V1 LAN Card」が表示されていることを確認します。

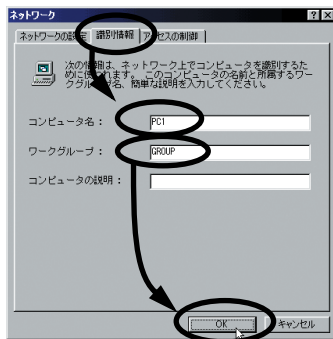


「NetBEUI」と「Microsoft ネットワーククライアント」が「現在のネットワークコンポーネント」にない場合は、「追加」ボタンをクリックし、各プロトコルやサービスを追加してください。

○ 識別情報の確認

以下の手順にしたがい、「識別情報」を確認します。

- (1) 「識別情報」タブをクリックして、「コンピュータ名」「ワークグループ」「コンピュータの説明」を設定し「OK」ボタンをクリックします。



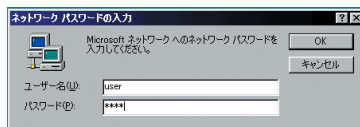
ワークグループ名は、ピアツーピア接続するすべてのコンピュータに同じ名前を設定してください。また、Windows の OS 自体が、コンピュータ名・ワークグループ名の漢字（日本語・カナ）に対応していません。必ず半角英数字をご使用ください。

- (2) Windows の再起動が要求されますので、「OK」ボタンを押して、再起動します。



要求されない場合でも、再起動をおこなって設定を有効にしてください。

- (3) Windows が再起動され「ネットワークパスワードの入力」画面が表示されます。

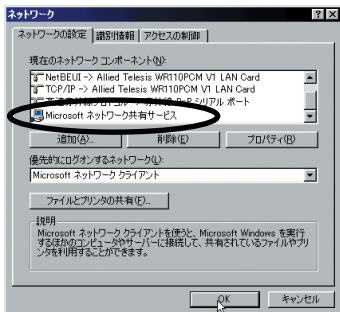


「ユーザー名」と「パスワード」は毎回、必ず入力して、「OK」ボタンをクリックしてください。入力しない場合は、ネットワークでの通信ができなくなる場合があります。

■コンピューターの共有設定

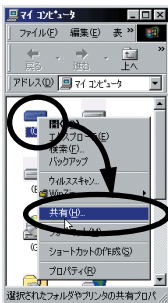
ハードディスクの共有について説明します。プリンターを共有する場合は、プリンタメーカーによって操作が異なりますので、プリンタメーカーにご相談ください。ここでは「C:」ドライブを共有するときの手順を例に説明します。

- (1) 「ネットワークの設定」タブの「現在のネットワークコンポーネント」に、「Microsoft ネットワーク共有 サービス」が表示されていることを確認します。

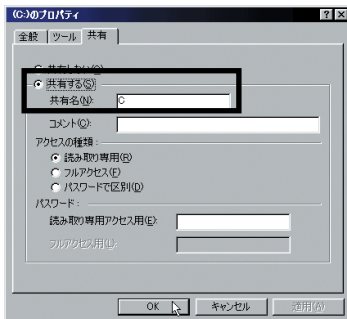


表示されていない場合は、「ファイルとプリンタの共有」ボタンをクリックし、「ファイルを共有できるようにする」をチェックして、「OK」ボタンをクリックします。

- (2) デスクトップ上の「マイコンピュータ」アイコンをダブルクリックします。
- (3) 「マイコンピュータ」ダイアログの「C:」ドライブアイコンを右クリックして「共有」を選択します。



- (4) 「共有」タブをクリックし、「共有する」ラジオボタンを選択します。「共有名」「アクセス権の種類」「パスワード」などの項目を運用方法に合わせて設定します。

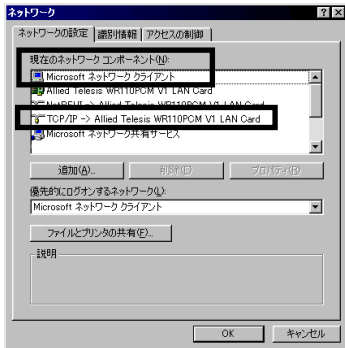


- (5) C ドライブが共有できる状態になります。



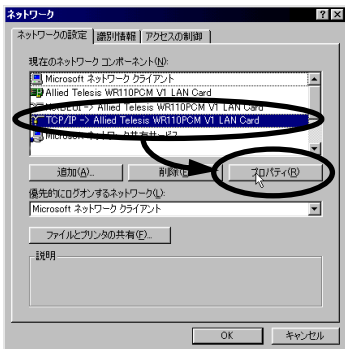
■ 「TCP/IP」 プロトコルを使用

- (1) 「スタート」→「設定」→「コントロールパネル」を選択します。
- (2) 「ネットワーク」アイコンをダブルクリックします。
- (3) 「ネットワークの設定」タブの「現在のネットワークコンポーネント」に、「TCP/IP」と「Microsoft ネットワーククライアント」が表示されていることを確認します。

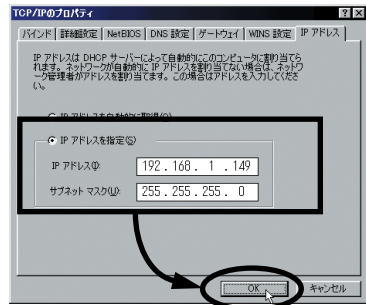


「TCP/IP」が「現在のネットワークコンポーネント」にない場合は、「追加」ボタンをクリックし、プロトコルを追加してください。

- (4) 「TCP/IP」を選択し、「プロパティ」ボタンをクリックします。



- (5) 「IP アドレス」タブで、IP アドレスなどを設定して「OK」をクリックします。



「IP アドレスを自動的に取得」

DHCP サーバーには、IP アドレスを自動的に割り当て、管理する機能があり、DHCP サーバーがネットワーク上に存在する場合は、「IP アドレスを自動的に取得」を選択することができます。

無線 LAN 上に、Windows NT/2000 Server やルーターなどの DHCP サーバー機能をもった機器がない場合には、IP アドレスは手動で設定しなければなりません。無線 LAN 上に、Windows 98/98SE/Me のコンピューターしかない場合は、DHCP サーバーは存在しません。

「IP アドレスを設定」

ネットワーク上の他のコンピューターに、既に IP アドレスが割り振られている場合には、ネットワーク管理者に IP アドレスを確認してください。

- (6) 再度「OK」をクリックしてネットワークの設定画面を閉じます。

4.2.2 Windows 2000/XP の場合



ここでは Windows XP の画面を使用して説明します。また、コンピューターには本製品以外の LAN アダプターはインストールされていないことを前提に説明します。



ここでは TCP/IP の設定について説明しますが、その他ファイル共有などに必要な設定については、OS の取扱説明書を参照して設定してください。



Windows 2000 をご使用の場合は「Administrator」所属のユーザー名、Windows XP をご使用の場合は「コンピューターの管理者」となっているユーザー名でログオンしてください。

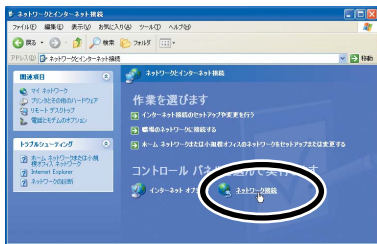


Windows 2000 をご使用の場合は、デスクトップの「マイネットワーク」を右クリックし「プロパティ」を選択したら(4)の手順に進んでください。

- (1) 「スタート」→「コントロールパネル」をクリックします。
- (2) 「ネットワークとインターネット接続」をクリックします。



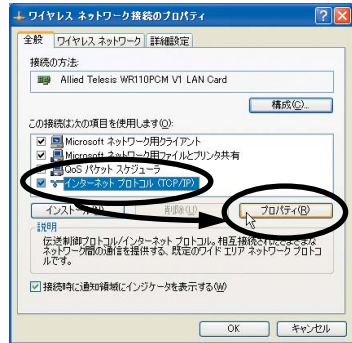
- (3) 「ネットワーク接続」をクリックします。



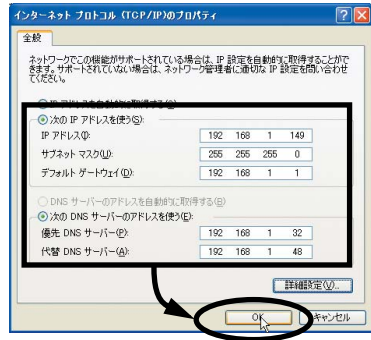
- (4) 「ワイヤレスネットワーク接続」アイコン (Windows 2000 の場合は「ローカルエリア接続」アイコン) を右クリックして「プロパティ」を選択します。



- (5) 「インターネットプロトコル (TCP/IP)」を選択し、「プロパティ」ボタンをクリックして設定をおこないます。



- (6) IP アドレスなどを設定して「OK」ボタンをクリックします。



- (7) 再度、「OK」ボタンをクリックしてプロパティ画面を閉じます。

その他、ネットワーク設定に関する詳しい説明については、OS の取扱説明書を参照してください。

4.2.3 Windows NT 4.0 の場合

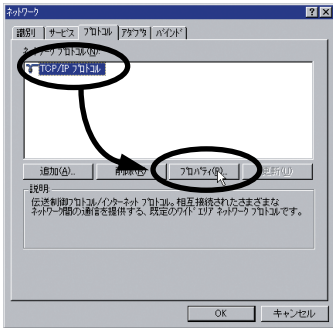


ここでは、最も基本的な TCP/IP の設定方法についてのみ説明します。その他の設定については、OS の取扱説明書を参照してください。

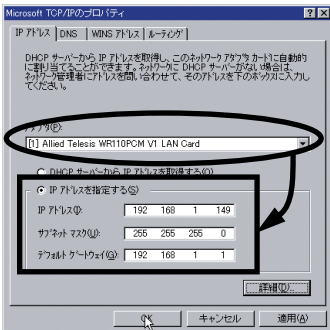


以下の作業をおこなう際は、「Administrator」所属のユーザー一名でログオンしてください。

- (1) 「コントロールパネル」内の「ネットワーク」アイコンをダブルクリックします。
- (2) 「プロトコル」タブの「TCP/IP プロトコル」を選択したら「プロパティ」ボタンをクリックします。



- (3) 「アダプタ」で本製品を選択して、IP アドレスなどを設定します。



- (4) 再度、「OK」ボタンをクリックして画面を閉じます。

4.3 ネットワーク接続の確認

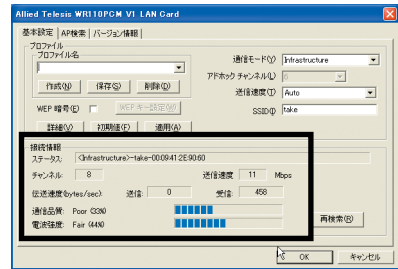
4.3.1 Configuration Utility での通信確認

「Configuration Utility」の「基本設定」タブで、アクセスポイントとの接続状態を確認することができます。

- (1) タスクバーに表示されている無線アイコンをダブルクリックします。タスクバーに表示される無線アイコンは、通信モードの設定などにより異なります。無線アイコンの種類については、「4.1.4 無線アイコンの表示」(p.35)を参照してください。

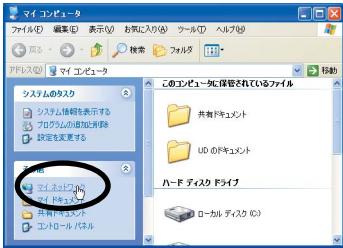
タスクバーに無線アイコンが表示されていない場合は、「スタート」→「すべてのプログラム (プログラム)」→「CentreCOM WR110V1 Series」→「Configuration Utility」を選択します。

- (2) 「基本設定」タブ内の「接続情報」で、アクセスポイントとの接続状態を確認できます。各項目の詳細については「4.1.1 「基本設定」画面」(p.29)を参照してください。

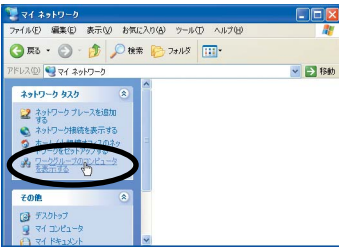


4.3.2 マイネットワーク (ネットワークコンピュータ) からの確認

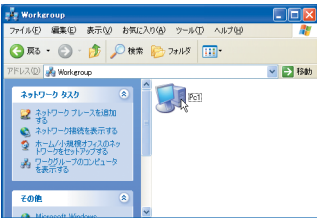
- (1) 「スタート」→「マイコンピュータ」から「マイネットワーク」をクリックします (XP 以外の OS の場合は、デスクトップの「マイネットワーク」または「ネットワークコンピュータ」をダブルクリックします)。



- (2) 「ワークグループのコンピュータを表示する」をクリックします (XP 以外の OS の場合、この手順は不要です)。



- (3) 「ネットワークコンピュータ」に、無線 LAN で接続されているコンピュータが表示されます。



- (4) 接続先のコンピュータのアイコンをダブルクリックすると、共有しているフォルダーを参照することができます。



4.3.3 「PING」での確認



「PING」コマンドを実行するには、TCP/IP プロトコルがインストールされていなければなりません。



ここでは、Windows XP での手順を説明します。

- (1) コンピューターのネットワーク設定で、「TCP/IP」プロトコルの IP アドレスなどが正しく設定されていることを確認します。
- (2) 「スタート」メニューから、「すべてのプログラム」→「アクセサリ」→「コマンドプロンプト」を選択します。
- (3) 「PING」コマンドで、接続先のコンピュータの IP アドレスを指定し、通信できることを確認します。

コマンド入力例

```
>ping xxx.xxx.xxx.xxx
```

xxx.xxx.xxx.xxxの部分には、接続先のコンピュータの IP アドレスを入力します。

- (4) 正常に通信ができている場合には、次のように表示されます。ここでは、接続先のコンピュータのアドレスを、「192.168.1.157」としています。

```
Microsoft Windows [Version 5.1.2600]
(C) Copyright 1985-2001 Microsoft Corp.

C:\Documents and Settings\Yuki>ping 192.168.1.157

Pinging 192.168.1.1 with 32 bytes of data:

Reply from 192.168.1.157: bytes=32 time=209ms TTL=57
Reply from 192.168.1.157: bytes=32 time=186ms TTL=57
Reply from 192.168.1.157: bytes=32 time=187ms TTL=57
Reply from 192.168.1.157: bytes=32 time=187ms TTL=57

Ping statistics for 192.168.1.157:
    Packets: Sent = 4, Received = 4, Lost = 0 (0% loss)
    Approximate round trip times in milli-seconds:
        Minimum = 186ms, Maximum = 209ms, Average = 189ms
```


5 取り外しとアンインストール

5.1 取り外し



本製品に触れる前に、あらかじめ他の金属部分（水道の蛇口、ドアノブなど）に触れて体内の静電気を放電してください。このとき、ガス管など発火する危険性のあるものには、絶対に触れないようにしてください。

5.1.1 Windows 98/98SE/Me/2000 の場合

Windows 98/98SE/Me/2000 はホットスワップ（活線挿抜）をサポートしていますので、コンピューターの電源をオンにした状態で本製品を PC カードスロットから取り外すことができます。ただし、コンピューターの電源がオンの状態で本製品を取り外す場合は、必ず以下の手順でおこなってください（画面例は Windows 98 の例です）。



以下の手順を守らなかった場合、コンピューターのハングアップや、Windows ファイルの破壊を招く恐れがあります。また、以下の手順をお守りいただかないで起こった障害に関してはユーザーサポートの対象外とさせていただきます。

- (1) ネットワークと通信をおこなっているアプリケーション、例えば Internet Explorer、Netscape Navigator、Telnet やデータベースアプリケーションなどをすべて終了してください。「ネットワークドライブの割り当て」をおこなっている場合は、すべて切断してください。
- (2) ユーティリティのアイコンを右クリックして「ユーティリティの終了」を選択し、ユーティリティを終了します。



- (3) PC カードアイコンをクリックします。



- (4) 「Allied Telesis WR110PCM V1 LAN Card の中止」が表示されたらクリックします。



- (5) 「OK」ボタンをクリックします。



- (6) コンピューターの PC カード取り外しボタンを押してください。本製品を安全に取り外すことができます。

5.1.2 Windows XP の場合

Windows XP はホットスワップ（活線挿抜）をサポートしていますので、コンピューターの電源をオンにした状態で本製品を PC カードスロットから取り外すことができます。ただし、コンピューターの電源がオンの状態で本製品を取り外す場合は、必ず以下の手順でユーティリティを終了させてください。



以下の手順を守らなかった場合、コンピューターのハングアップや、Windows ファイルの破壊を招く恐れがあります。また、以下の手順をお守りいただかないで起こった障害に関してはユーザーサポートの対象外とさせていただきます。

- (1) ネットワークと通信をおこなっているアプリケーション、例えば Internet Explorer、Netscape Navigator、Telnet やデータベースアプリケーションなどをすべて終了してください。「ネットワークドライブの割り当て」をおこなっている場合は、すべて切断してください。
- (2) ユーティリティのアイコンを右クリックして「ユーティリティの終了」を選択し、ユーティリティを終了します。



- (3) コンピューターの PC カード取り外しボタンを押してください。本製品を安全に取り外すことができます。

5.1.3 Windows NT 4.0 の場合



Windows NT では、ホットスワップ（活線挿抜）はできません。本製品の取り付け、取り外しをおこなう際には、必ずコンピューターの電源がオフになっていることをご確認ください。誤ってホットスワップ（活線挿抜）をおこなった場合に起こった障害に関しては、ユーザーサポートの対象外とさせていただきますので、ご了承ください。

- (1) ネットワークと通信をおこなっているアプリケーション、例えば Internet Explorer、Netscape Navigator、Telnet やデータベースアプリケーションなどをすべて終了してください。「ネットワークドライブの割り当て」をおこなっている場合は、すべて切断してください。

- (2) ユーティリティーのアイコンを右クリックして「ユーティリティーの終了」を選択し、ユーティリティーを終了します。



- (3) 「5.3 本製品を一時的に使用しないとき」の「5.3.3 Windows NT 4.0 の場合」(p.48) を参照して、本製品を無効にします。
- (4) コンピューターの電源をオフにします。
- (5) コンピューターのPCカード取り外しボタンを押してください。本製品は、PC カードスロットから外れ、手で取り出せる状態になります。

5.2 アンインストール

5.2.1 Windows 98/98SE/Me/2000/XP の場合



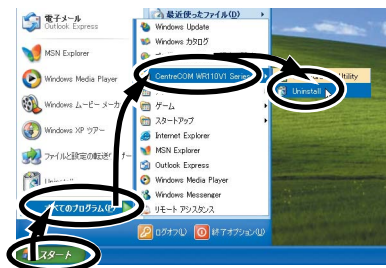
Windows 2000 をご使用の場合は「Administrator」所属のユーザー名、Windows XP をご使用の場合は「コンピュータの管理者」となっているユーザー名でログオンしてください。



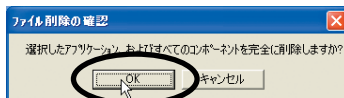
ここでは、Windows XP の画面例を使用して説明します。

アンインストールを実行すると、本製品のドライバーと Configuration Utility がコンピュータから削除されますので、ご注意ください。また、アンインストールを実行する際は必ず下記の手順にしたがっておこなってください。

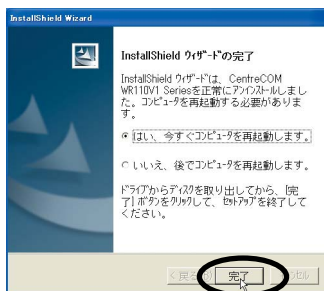
- (1) 「5.1 取り外し」(p.43) の手順を実行します。
- (2) 「スタート」→「すべてのプログラム (プログラム)」→「CentreCOM WR110V1 Series」→「Uninstall」を選択します。



- (3) 「OK」ボタンをクリックします。



- (4) 「はい、今すぐコンピュータを再起動します。」が選択されていることを確認して「完了」ボタンをクリックします。



5.2.2 Windows NT 4.0 の場合

アンインストールを実行すると、本製品のドライバーと Configuration Utility がコンピュータから削除されますので、ご注意ください。また、アンインストールを実行する際は必ず下記の手順にしたがっておこなってください。



以下の作業をおこなう際は、「Administrator」所属のユーザー名でログオンしてください。

- (1) ネットワークと通信をおこなっているアプリケーション、例えば Internet Explorer、Netscape Navigator、Telnet やデータベースアプリケーションなどをすべて終了してください。「ネットワークドライブの割り当て」をおこなっている場合は、すべて切断してください。
- (2) ユーティリティーのアイコンを右クリックして「ユーティリティーの終了」を選択し、ユーティリティーを終了します。



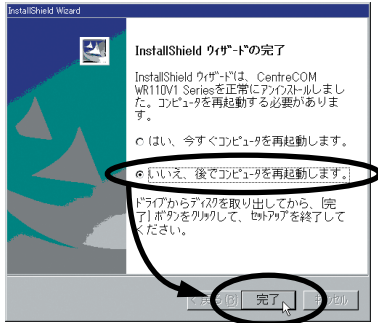
ユーティリティーを終了しないでアンインストールをおこなった場合、ユーティリティー関連ファイルが完全に削除されない場合がありますので、必ずユーティリティーを終了してください。

- (3) 「スタート」→「プログラム」→「CentreCOM WR110V1 Series」→「Uninstall」を選択します。

(4) 「OK」 ボタンをクリックします。



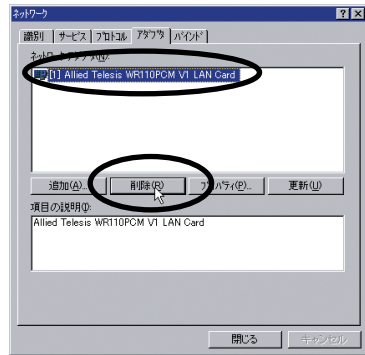
(5) 「いいえ、後でコンピュータを再起動します。」が選択されていることを確認して「完了」 ボタンをクリックします。



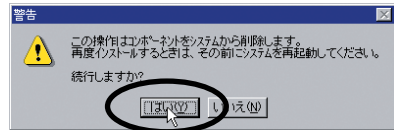
(6) 「スタート」→「設定」→「コントロールパネル」内で「ネットワーク」アイコンをダブルクリックします。



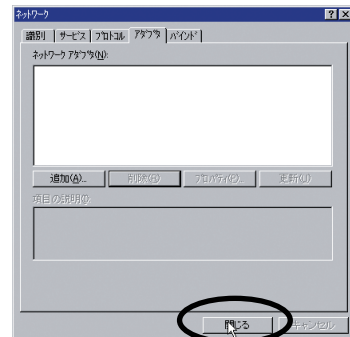
(7) 「アダプタ」タブの「ネットワークアダプタ」で本製品を選択し「削除」ボタンをクリックします。



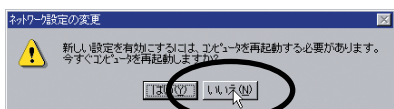
(8) 「続行しますか？」と表示されたら「はい」ボタンをクリックします。



(9) 「閉じる」ボタンをクリックします。



(10) 「再起動しますか？」と表示されたら「いいえ」をクリックします。



(11) コンピューターの電源をオフにします。

(12) コンピューターのPCカード取り外しボタンを押してください。本製品は、PC カードスロットから外れ、手で取り出せる状態になります。

5.3 本製品を一時的に使用しないとき



以下の作業は、ユーティリティーを終了させてからおこなってください。

5.3.1 Windows 2000/XP の場合



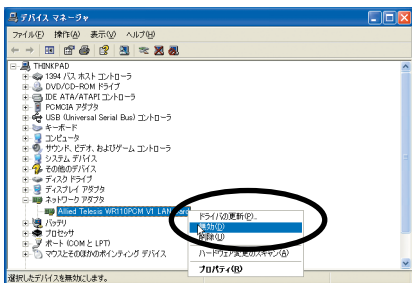
ここでは、Windows XP の画面例を使用して説明します。

本製品を PC カードスロットに付けたまま、一時的に使用を中止する際には、デバイスを無効に設定します。使用を再開したい場合には、有効に設定します。



Windows 2000 をご使用の場合は「Administrator」所属のユーザー名、Windows XP をご使用の場合は「コンピュータの管理者」となっているユーザー名でログインしてください。

(1) 「デバイス マネージャ」で本製品を右クリックして「無効」を選択します。

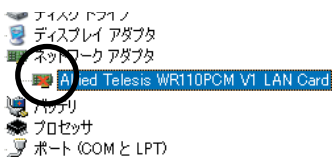


デバイスマネージャの表示方法がわからない場合は、「3.1.2 ドライバーの確認」(p.22) または「3.2.2 ドライバーの確認」(p.24) を参照してください。

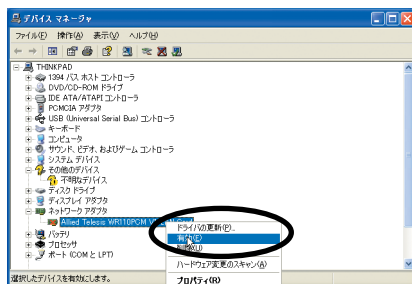
(2) 「はい」 ボタンをクリックします。



(3) 製品名の前に「x」マークが付いていることを確認します。



(4) 再度有効にするには、製品名を右クリックし「有効」を選択します。



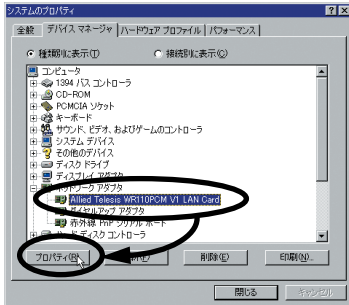
5.3.2 Windows 98/98SE/Me の場合



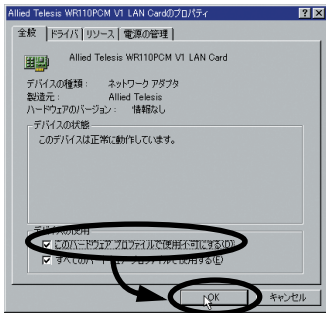
ここでは、Windows 98 の画面例を使用して説明します。

本製品を PC カードスロットに付けたまま、一時的に使用を中止するときには、デバイスを無効に設定します。使用を再開したい場合には、有効に設定します。

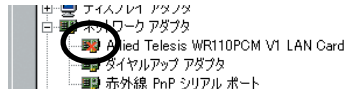
- (1) 「デバイス マネージャ」で本製品を選択して「プロパティ」ボタンをクリックします。



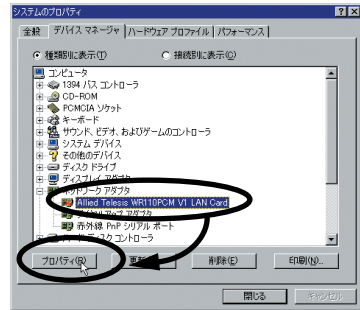
- (2) 「このハードウェアプロファイルで使用不可にする」にチェックを付けて「OK」ボタンをクリックします。



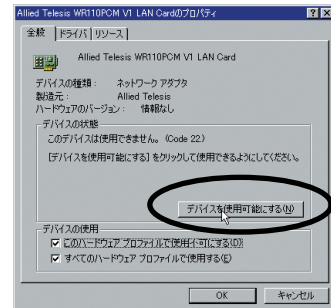
- (3) 製品名の前に「x」マークが付いていることを確認します。



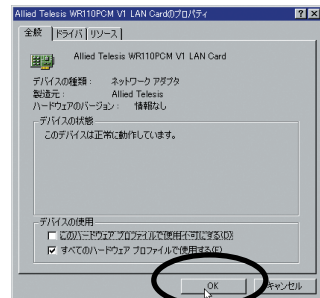
- (4) 再度有効にするには、製品名をクリックし「プロパティ」ボタンをクリックします。



- (5) 「デバイスを使用可能にする」ボタンをクリックします。



- (6) 「OK」ボタンをクリックします。



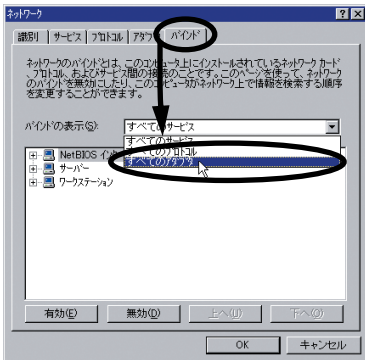
5.3.3 Windows NT 4.0 の場合

本製品の使用を一時的に中止するとき、例えば本製品をコンピューターから取り外す場合などは、ドライバーをアンロードしてください。ドライバーがロードされたままにしておくと、Windows NT はこれらの現象をネットワークのエラーとして検出し、イベントビューアによる警告が表示されるようになります。この現象はドライバーをアンロードすることによって回避できます。

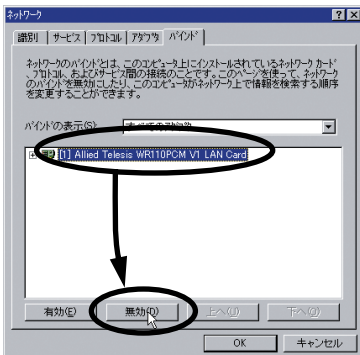


以下の作業をおこなう際は、「Administrator」所属のユーザー名でログオンしてください。

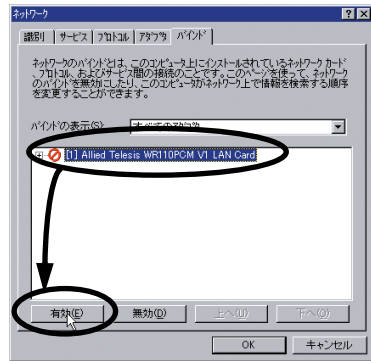
- (1) 「コントロールパネル」の「ネットワーク」アイコンをダブルクリックします。
- (2) 「バインド」タブをクリックし、「バインドの表示」で、「すべてのアダプタ」を選択します。



- (3) 製品のアイコン「Allied Telesis WR110PCM V1 LAN Card」を選択し、「無効」ボタンをクリックします。



- (4) 使用を再開する場合は、本製品のアイコンを選択し、「有効」ボタンをクリックします。



A.1 製品仕様

無線部	
準拠規格	国際規格 IEEE 802.11、802.11b 国内規格 RCR STD-33、 ARIB STD-T66
周波数帯域	2.4GHz
変復調方式	DS-SS 方式
情報変調方式	CCK、DQPSK、DBPSK
アクセス制御方式	CSMA/CA + ACK with RTS/CTS
データ送信速度	11/5.5/2/1 Mbps 自動切り替え
サービスエリア	屋外 300m、屋内 80m (11Mbps 通信時は、屋外 155m、屋内 50m)
暗号化	64bit、128bit WEP 暗号化 (RC4)
空中線電力	4mW/MHz (最大)
アンテナ形式	strip アンテナ
アンテナダイバーシティー	空間ダイバーシティー方式
チャンネル数	14 チャンネル
電源部	
動作電圧	DC +5V
平均消費電力	1.08W (最大 1.75W)
最大消費電流	送信時 350mA 受信時 250mA
平均発熱量	3.9kJ/h (最大 6.3kJ/h)
環境条件	
動作時温度	0 ~ 55 °C
動作時湿度	90% 以下 (ただし結露なきこと)
保管時温度	-20 ~ 65 °C
保管時湿度	95% 以下 (ただし結露なきこと)
外形寸法	
	54.0(W) × 120.2(L) × 5.0(T) mm (アンテナ部 7.0(T) mm) (Type II Extended PC Card)
質量	
	45g
適合規格	
EMI 規格	VCCI クラス B
電波法に基づく技術基準	技術基準適合認証 03NYDA0195、03GZDA0161
相互接続認定	Wi-Fi

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会 (VCCI) の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としています。この装置がラジオやテレビジョン受信機に接続して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをして下さい。

A.2 MAC アドレス

イーサネットに接続される機器は、MACアドレスと呼ばれるアドレスを使って通信をおこないます。MACアドレスは機器 (アダプター) のひとつひとつに割り当てられた唯一無二の (unique、ユニークな) アドレスです。

MACアドレスは、下記の 6 バイト (48 ビット) によって構成されており、本製品の内部に書き込まれているため、ユーザーが変更することはできません。本製品の MAC アドレスは、製品に貼付されている MAC アドレスラベルに記入されています (表記はすべて 16 進数)。

00 09 41 xx xx xx
ベンダー ID 通し番号

- ベンダー ID
LAN ベンダー (LAN 用機器を製造しているメーカー) が IEEE に申請することにより得られる識別番号です。

- 通し番号
この番号は、弊社が製品を識別するために割り当てたもので、本製品は、「4B 50 00」から始まる 6 桁の数値となっています。この通し番号と本製品の「シリアル番号ラベル」の番号に関連はありません。



MAC アドレス (マックアドレスと読みます) は、物理アドレス、ネットワークアドレス、イーサネットアドレスなどと呼ばれることもあります。また、MAC アドレスは、TCP/IP の環境で使用される IP アドレスに関係がありますが、これらは別々のものです。

B.1 本製品に関する用語

● 802.11 AdHoc

「802.11 AdHoc」モードは、本製品を取り付けたコンピューター同士でネットワークを構成する場合に使用します。コンピューター同士は、ピアツーピアで接続され、お互いのリソースを共有することができます。

● Infrastructure

「Infrastructure」モードは、アクセスポイントを使用し、有線ネットワークと無線ネットワークを統合して1つのネットワークとして構成する場合に使用します。

● SSID

「SSID」(Service Set Identifier)は無線LANを構成する無線機器同士を識別する名前です。同じネットワークに属する無線機器は、同じSSIDを設定しなければなりません。「SSID」は、半角英数字32文字以内(大文字、小文字も区別される)で設定します。「SSID」の設定は、「Infrastructure」モードの場合に有効です。

● 通信モード

デフォルトでは、「Infrastructure」に設定されています。アクセスポイントと通信する場合は「Infrastructure」、本製品を取り付けたコンピューター同士で通信する場合は「802.11 AdHoc」を選択します。

● 送信速度

送信速度は、無線LANを構成するネットワーク機器が対応している速度から選択することができます。帯域を有効に利用し、最適な速度で通信を実行するには、「Auto」に設定しておきます。「Auto」に設定すると、送信速度はネットワークを構成するネットワーク機器に合わせて自動的に調整され、最適な速度で通信できるようになります。

● WEP 暗号

本製品は、無線ネットワーク上で交換されるデータを保護するために、暗号を使用することができます。WEP (Wired Equivalent Privacy) という暗号化方式を使用しています。WEPでは、64 bit/128 bitの組み合わせからなるキーを使用し、ネットワークへのアクセスをコントロールします。また、データの送信ごとに暗号化することによって、データの安全性を確保します。送信されたデータを解読するには、無線ネットワーク上のコンピューターにも、同じキーを設定しておかなければなりません。

● ローミング機能

複数のアクセスポイントがある場合、電波状態により、接続するアクセスポイントを自動的に切り替える機能です。アクセスポイント間を移動しても、再接続などの必要はありません。

● IEEE 802.1x

ネットワーク内のユーザー認証方式を定めた規格です。認証されていないクライアントからの通信は、認証要求を除いてすべて遮断し、認証されたユーザーのみ通信を許可します。ユーザー認証にはRADIUSなどのサーバーを使用します。

B.2 ネットワーク関連の用語

● ピアツーピア接続

コンピューター同士が、1対1で対等におこなう通信です。サーバーとクライアントのように機能を分化せず、お互いの機能を利用して通信をおこない、ファイルやプリンターなどの資源を共有することができます。

● Microsoft ネットワーククライアント

Windows 98/98SE/Meなどでサーバーサービスを利用するためのクライアントソフトウェアです。通常、プロトコルには、「NetBEUI」が使用されます。

● NetBEUI プロトコル

小規模のネットワークトランスポートプロトコルです。NetBEUIは、OSI参照モデルのトランスポート層およびネットワーク層プロトコルに相当します。これを、NetBIOSと統合することにより、ワークグループLAN環境で効率的な通信システムが実現されます。Windows 98などでサポートされています。

● TCP/IP プロトコル

インターネットで使用されているプロトコルで、OSI参照モデルのトランスポート層およびネットワーク層プロトコルに相当します。TCP/IPプロトコルを使用すると、異なるプラットフォームのコンピューター同士でも通信することができます。

● 無線 LAN

配線を必要としないLAN (Local Area Network) のことです。1つの建物内や敷地内など、比較的狭い範囲で、電波や赤外線、レーザーを使用してネットワークを構築します。

● アクセスポイント

無線LANから有線LANのネットワーク上のコンピューターに通信するための装置です。

C 工場出荷時設定

WR110 PCM V1の工場出荷時設定は以下のとおりです。

プロファイル	
プロファイル名	default
通信モード	Infrastructure
アドホックチャンネル	6
SSID	allied
送信速度	Auto
暗号	
WEP 暗号	無効
WEP キー設定	キーワード入力
暗号	64 bit
デフォルトキー選択	1
詳細	
省電力	無効
認証方法	Auto
プリアンブルタイプ	Long
RTS しきい値	無効
パケット分割しきい値	無効

D トラブルシューティング

ここでは、本製品使用中のトラブルの代表的な例と、その対応方法について説明します。主な現象ごとに、その原因と対応方法を説明していますが、よくわからない場合には、次の手順で本製品の状態を確認しながら、トラブルを解決してください。

- (1) LED は消灯していませんか？
- (2) 本製品のドライバーが正しくインストールされていますか？
- (3) 本製品の設定は正しいですか？
- (4) 本製品を取り付けたコンピューターのネットワーク設定は正しいですか？
- (5) 電波の状態は良好ですか？



以下の手順は、本製品を PC カードスロットに取り付けた状態でおこなってください。

D.1 LED が消灯している

D.1.1 コンピューターに認識されない

本製品がコンピューターに正しく取り付けられていないと、コンピューターに認識されず、本製品のドライバーが自動的にインストールされない、PCカードが検出されないなどの現象が発生します。

●原因1

本製品が、コンピューターの PC カードスロットの奥まできちんと挿入されていない。

○対応方法

LED が消灯している場合は、「3 本製品の取り付け」(p.21)を参照し、本製品をコンピューターに正しく取り付けてください。



コンピューターの機種によっては、本製品を PC カードスロットに挿入するときに、挿しにくい場合もありますが、本製品は、PC カードスロットの奥までしっかりと押し込むようにしてください（奥までしっかり挿されていないと、本製品が認識されないことがあります）。

●原因2

コンピューターの PC カードスロットが故障している。

○対応方法

PC カードスロットを複数装備しているコンピューターをご使用の場合は、違うスロットに取り付けて、本製品がコンピューターに認識されることを確認してください。別のコンピューターがある場合は、別のコンピューターの PC カードスロットに本製品を取り付けて、コンピューターに認識されることを確認してください。

D.2 ドライバーが正しくインストールされていない

D.2.1 「デバイスマネージャ」に本製品が正しく表示されない

「3.1.2 ドライバーの確認」(p.22)または「3.2.2 ドライバーの確認」(p.24)にしたがって確認をおこない、「Allied Telesis WR110 PCM V1 LAN Card」のアイコンが以下のようにになっている場合は、ドライバーのインストールに失敗しているために、次のような現象が発生します。

- 「ネットワークアダプタ」の項目がない
- 「その他のデバイス」や「不明なデバイス」の下に入ってしまった
- デバイスマネージャで「!」「?」マークが付く
- 「Allied Telesis WR110 PCM V1 LAN Card」アイコンが2つ以上ある

●原因

本製品のドライバーが正しくインストールされていない。

○対応方法

本製品のユーティリティとドライバーをいったんアンインストールし、新たにインストールしなおします。以下の手順を実行してください。

- (1) 「5.2 アンインストール」(p.44)の手順にしたがって本製品のユーティリティとドライバーをアンインストールします。
- (2) 「2 インストール」(p.13)の手順にしたがって、ドライバーをインストールしなおしてください。

D.2.2 デバイスマネージャで「×」が付く

●原因

デバイスが「使用不可」に設定されている。

○対応方法

次の手順にしたがって、「Allied Telesis WR110 PCM V1 LAN Card」を「使用可」の状態に切り替えます。

- (1) 「Allied Telesis WR110 PCM V1 LAN Card」を選択（反転表示）し、「プロパティ」ボタンをクリックし、「全般」タブを表示します（「5 取り外しとアンインストール」(p.43)参照）。
- (2) 「デバイスの使用」欄の「このハードウェアプロファイルを使用不可にする」のチェックを外してください。

D.2.3 PCMCIA コントローラーが正しく表示されない

「3.1.2 ドライバーの確認」(p.22) または 「3.2.2 ドライバーの確認」(p.24) にしたがってインストールの確認をおこなった際に、「PCMCIA ソケット」の下に表示される PCMCIA コントローラーのアイコンに「!」「?」のマークが付いている場合は、PCMCIA コントローラーが正しくインストールされていません。

●原因

本製品のドライバーは、PCMCIA コントローラーと協調して動作します。そのため、PCMCIA コントローラーが正しくインストールされていない状況では、本製品のドライバーは動作することができません。



注意

ご使用のコンピューターの PCMCIA コントローラー専用ドライバーが、フロッピーディスクなどで提供されていることがあります。以下で説明する手順を実行する前に、必ずご使用のコンピューターのマニュアルを確認し、そのマニュアルに記載されている手順で PCMCIA コントローラーの再インストールをおこなってください。また、専用のドライバーが提供されていない場合は、どのようなドライバーが使用されているのかを調べてください。



注意

CardBus 対応のコンピューター機種には、使用する PC カードに応じて 2 種類 (16bit/32bit) の PCMCIA コントローラーを切り替えなければならぬものがありますのでご注意ください。詳細は、ご使用のコンピューターのマニュアルもしくは、コンピューターのメーカーにご確認ください。

○対応方法

次の手順を実行し、PCMCIA コントローラー用ドライバーをインストールしなおします。

- (1) 「デバイスマネージャ」を表示します。
- (2) 「PCMCIA ソケット (アダプタ)」の下にある PCMCIA コントローラーを選択し、「削除」ボタンをクリックしてください。
- (3) 「デバイス削除の確認」ダイアログが表示されます。「OK」ボタンをクリックしてください。
- (4) 「デバイスマネージャ」から「PCMCIA ソケット (アダプタ)」のアイコンが消えていることを確認します。
- (5) Windows を終了し、コンピューターの電源をオフにした後、本製品を PC カードスロットから取り外します。
- (6) 再びコンピューターの電源をオンにします。「コントロールパネル」ウィンドウを表示し、「PC カード (PCMCIA)」アイコンが消えていることを確認します。



Plug & Play 機能により、ドライバーを自動的に読み込んでしまうコンピューター機種もあります。

- (7) 「ハードウェアの追加」アイコン (コントロールパネル) をダブルクリックしてください。「ハードウェアの追加ウィザード」が起動したら、「次へ」ボタンをクリックしてください。「ハードウェアの追加ウィザード」の実行には数分の時間がかかります。
- (8) 「はい (通常はこちらを選んでください)」を選択し、続く 2 つの質問に対して「次へ」ボタンをクリックして進みます。最後に「完了」ボタンをクリックしてハードウェアの追加ウィザードを終了してください。
- (9) 続いて、自動的に「PC カード (PCMCIA) ウィザード」が起動します。表示されるメッセージにしたがって操作してください。

D.2.4 リソース値重複の回避

前述の手順にしたがってドライバーの削除および再インストール作業をおこなっても、なおアイコンに「!」「?」マークが付いている場合があります。

●原因

Windows 98/98SE/Me/NT 4.0 の場合、他の拡張アダプターとリソースの値が重複している可能性があります。

○対応方法 (Windows 98/98SE/Me の場合)

特に、Plug & Play に対応していない他の拡張アダプターを本製品とともに使用している場合は、その拡張アダプターが使用するリソース値を Windows 98/98SE/Me にあらかじめ登録 (「予約」と呼びます) し、その値が他の Plug & Play 対応デバイス (本製品を含む) によって使用されないように設定することで、値の重複を回避できます。

- (1) Plug & Play 非対応の拡張アダプターが使用するリソースの値 (インタラプト (IRQ)、I/O ベースアドレス、メモリ、ダイレクトメモリアクセス (DMA)) を調べておきます。詳細は、その拡張アダプターのマニュアルをご覧ください。または、メーカーにお問い合わせください。
- (2) 「コントロールパネル」→「システム」→「デバイスマネージャ」→「コンピューター」→「コンピューターのプロパティ」パネル→「リソースの予約」と進みます。
- (3) 該当する項目を選択し、「追加」ボタンをクリックします。画面の指示にしたがって予約するリソースの値を登録してください。

○対応方法 (Windows NT4.0 の場合)

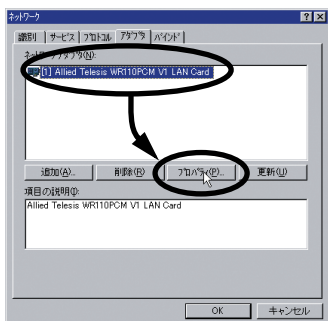
「●リソース値の確認」(p.26) を参照し、デバイス「PRISM」に正しくリソースが割り当てられていることを確認してください。正しく割り当てられていなかった場合は、次の手順にしたがって、「IRQ (インタラプト)」「I/O ポート (I/O ベースアドレス)」の設定を変更してみてください。「IRQ (インタラプト)」の推奨値は「3、4、5、7、9、10、11、15」です。

本製品のインストール後、初めて本製品をコンピューターに取り付けて再起動した場合に、コンピューターが正しく起動しないなどの問題が発生した場合は、本製品をコンピューターから取り外してから、次の手順を実行してください。



以下の作業をおこなう際は、「Administrator」所属のユーザー名でログオンしてください。

- (1) 「■ リソースの確認」(p.15) の手順にしたがって、空いているリソースを調べます。
- (2) 「コントロールパネル」の「ネットワーク」アイコンをダブルクリックし、「アダプタ」タブで「Allied Telesis WR110PCM V1 LAN Card」をクリックし、「プロパティ」ボタンをクリックします。



- (3) 「I/O Base」「IRQ Level」の値を、手順(1)で調べた、空きリソースの値に変更し、「OK」ボタンをクリックします。



- (4) コンピューターの電源をオフにし、本製品を取り付けます。
- (5) コンピューターの電源をオンにします。

D.3 本製品の設定が正しくない



D.3.1 本製品を取り付けたコンピューター同士で通信ができない

本製品の設定がコンピューター同士で異なっていると、正しく通信できません。次に説明する原因と対応方法を参照して、「Configuration Utility」で正しく設定しなおしてください。

原因	対応方法
「通信モード」は「802.11 AdHoc」ですか？	本製品を取り付けたコンピューター同士で通信をおこなうには、「通信モード」を「802.11 AdHoc」に設定します。
「暗号」設定は合っていますか？	本製品を取り付けたコンピューターの暗号設定は、同じ設定にします。
「SSID」の設定は合っていますか？	本製品を取り付けたコンピューターの「SSID」は、同じ文字列にします。

D.3.2 アクセスポイントを使用して通信できない

本製品を取り付けたコンピューターとアクセスポイントが接続できないと、通信はできません。次に説明する原因と対応方法を参照して、「Configuration Utility」で、正しく設定しなおしてください。

原因	対応方法
無線アイコンが  の場合	
アクセスポイントの電源は入っていますか？	アクセスポイントの電源をオンにしてください。
アクセスポイントが、見通せる位置に設置されていますか？	本製品を取り付けたコンピューターとアクセスポイントの距離を近づけたり、障害物をなくして見通しを良くしてください。
「SSID」の設定は合っていますか？	本製品を取り付けたコンピューターとアクセスポイントの「SSID」には、同じ文字列を設定します。
無線アイコンが  の場合	
「通信モード」は「Infrastructure」ですか？	アクセスポイントを使用して通信をおこなうには、「通信モード」を「Infrastructure」に設定します。
「暗号」設定は合っていますか？	本製品を取り付けたコンピューターとアクセスポイントの暗号設定は、同じ設定にします。

アクセスポイントの設定方法につきましては、アクセスポイント付属のユーザーマニュアルをご覧ください。

D.4 コンピューターのネットワーク設定が正しくない

D.4.1 「ネットワークコンピュータ」に他のコンピュータが表示されない

●原因 1

ネットワークの設定が正しくない。

○対応方法

「4.2 ネットワークの設定」(p.36)を参照し、ネットワークの設定を正しくおこなってください。必要なプロトコルがインストールされているか、コンピュータの識別情報が正しく設定されているか、共有設定が正しくなされているかを確認し、正しく設定しなおします。

●原因 2

TCP/IP プロトコルがインストールされていない。または設定が正しくない。

○対応方法

「■ 「TCP/IP」プロトコルを使用」(p.38)を参照し、TCP/IP の設定を確認します。

●原因 3

ネットワークパスワードを入力していない。

○対応方法

コンピュータを再起動して、ネットワークパスワードを入力します。

D.4.2 本製品を取り付けたコンピューター同士、またはアクセスポイントと通信ができない

●原因 1

TCP/IP プロトコルがインストールされていない。または設定が正しくない。

○対応方法

「■ 「TCP/IP」プロトコルを使用」(p.38)を参照し、TCP/IP の設定を確認します。

●原因 2

電波状態が悪い。

○対応方法

本製品を取り付けたコンピューター間の距離を短くしたり、障害物をなくして見通しを良くしてから、再度通信してください。また、「D.5 電波の状態が悪い」も参照してください。

D.5 電波の状態が悪い

●原因 1

無線を利用した家電を使用している。

○対応方法

2.4GHzの無線を使用した家電は無線LANの周波数に近いため、無線LAN 利用時には無線を利用した家電のご使用をお控えください。

●原因 2

使用環境に問題がある。

○対応方法

通信をおこなう環境に、下記の例のような電波を通さない材質の障害物などがあると電波の通信状態が悪くなりますので、その場合は使用環境を変更する、障害物を取り除くなどの対策をしてください。

電波を通さない障害物の例：

レンガ、コンクリートの壁、石の壁、鉄の仕切りやドア、鉄筋コンクリート造りの家の1階と2階

E 保証とユーザーサポート

E.1 保証

本製品の保証内容は、製品に添付されている「製品保証書」の「製品保証規定」に記載されています。製品をご利用になる前にご確認ください。

■保証の制限

本製品の使用または使用不能によって生じたいがなる損害（人の生命・身体に対する被害、事業の中断、事業情報の損失またはその他の金銭的損害を含み、またこれらに限定されない）については、弊社はその責をいっさい負わないこととします。

E.2 ユーザーサポート

本体の故障などのユーザーサポートは、「製品保証書」をご確認のうえ、調査依頼書として弊社サポートセンターへご連絡ください。

サポート連絡先

□アライドテレス株式会社 サポートセンター□

メールアドレス: support@allied-telesis.co.jp

Tel: ☎ 0120-860-772

月～金（祝・祭日を除く）9:00-12:00 13:00-18:00

（携帯電話 /PHS をご使用のお客様は「045-476-6203」までおかけください）

Fax: ☎ 0120-860-662

年中無休 24 時間受付

E.3 調査依頼書の内容について

調査依頼書は、お客様の環境で発生した様々な障害の原因を突き止めるためのものです。ご提供いただく情報が不十分な場合には、障害の原因究明に時間がかかり、最悪の場合には障害の解消ができない場合もあります。迅速に障害の解消をおこなうためにも、弊社担当者が障害の発生した環境を理解できるよう、以下の点についてご記載ください。なお、都合によりご連絡が遅れることもございますが、あらかじめご了承ください。

■一般事項

- ・送付日
- ・お客様のお名前、または会社名、ご担当者
- ・ご連絡先
- ・ご購入先

■ハードウェアとソフトウェア

- ・ご使用製品のシリアル番号、製品リビジョン
本製品に貼られたシリアル番号シールのシリアル番号 (S/N)、製品リビジョンコード (Rev.)、ファームウェアバージョンラベルのファームウェアバージョンを調査依頼書に記入してください。



- ・弊社製ソフトウェアをご使用になっている場合は、そのソフトウェアの種類、バージョン (Ver.)、シリアル番号 (S/N) を記入してください。それらは、ディスクのラベル上に記入されています。
- ・ご使用のコンピューターの種類
ご使用になっているコンピューターのメーカー名、機種名をご記入ください。
- ・ご使用の周辺機器
CD-ROM ドライブ、サウンドボード、SCSI ボードなどの他社製拡張アダプターや、メモリアマネージャなどのユーティリティをご使用の場合はそれらすべてについてご記入ください。
- ・ご使用のサーバー、UNIX システムの種類、OS など
接続しているサーバーの種類とその環境を可能な限りご記入ください（例えば、NetWare 6、Windows Server 2003、FreeBSD 5.0 など）。

■お問い合わせ内容

- ・どのような症状が発生するのか、それはどのような状況で発生するのかをできる限り具体的に（再現できるように）記入してください。
- ・障害などが発生する場合には、本製品と併用されているユーティリティや、アプリケーションの処理内容もご記入ください。
- ・エラーメッセージやエラーコードが表示される場合には、表示されるメッセージの内容のプリントアウトなどを添付してください。

■接続の構成図

- ・ネットワークとの接続状況や、使用されているネットワーク機器がわかる簡単な図を添付してください。
- ・他社の製品をご使用の場合は、メーカー名、機種名、バージョンなどをご記入ください。

E.4 最新ドライバーソフトウェアの 入手方法

弊社は、改良などのために予告なく、本製品のドライバーのバージョンアップやパッチレベルアップをおこなうことがあります。最新のドライバーソフトウェアは、弊社のホームページからダウンロードすることができます。

■ダウンロードの方法

Microsoft Internet Explorer、Netscape Navigatorなどの Web ブラウザーを使用して、アライドテレシスのホームページ「<http://www.allied-teleasis.co.jp/>」にアクセスして最新のドライバーソフトウェアを入手してください。

ご注意

- 本マニュアルは、アライドテレシス（株）が作成したもので、すべての権利をアライドテレシス（株）が保有しています。アライドテレシス（株）に無断で本書の一部または全部を複製することを禁じます。
- アライドテレシス（株）は、予告なく本マニュアルの一部または全体を修正、変更することがありますのでご了承ください。
- アライドテレシス（株）は、改良のため製品の仕様を予告なく変更することがありますのでご了承ください。
- 本製品の内容またはその仕様に関して発生した結果については、いかなる責任も負いかねますのでご了承ください。

©2003 アライドテレシス株式会社

商標について

CentreCOM、CentreNET はアライドテレシス株式会社の登録商標です。

Windows、WindowsNT は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

その他、この文書に掲載しているソフトウェアおよび周辺機器の名称は各メーカーの商標または登録商標です。

マニュアルバージョン

2003 年 6 月 Rev.A 初版

アライドテレシス株式会社

PN J613-M3552-00 Rev.A 030620

